

# FD活動報告書

2018年度

第一薬科大学

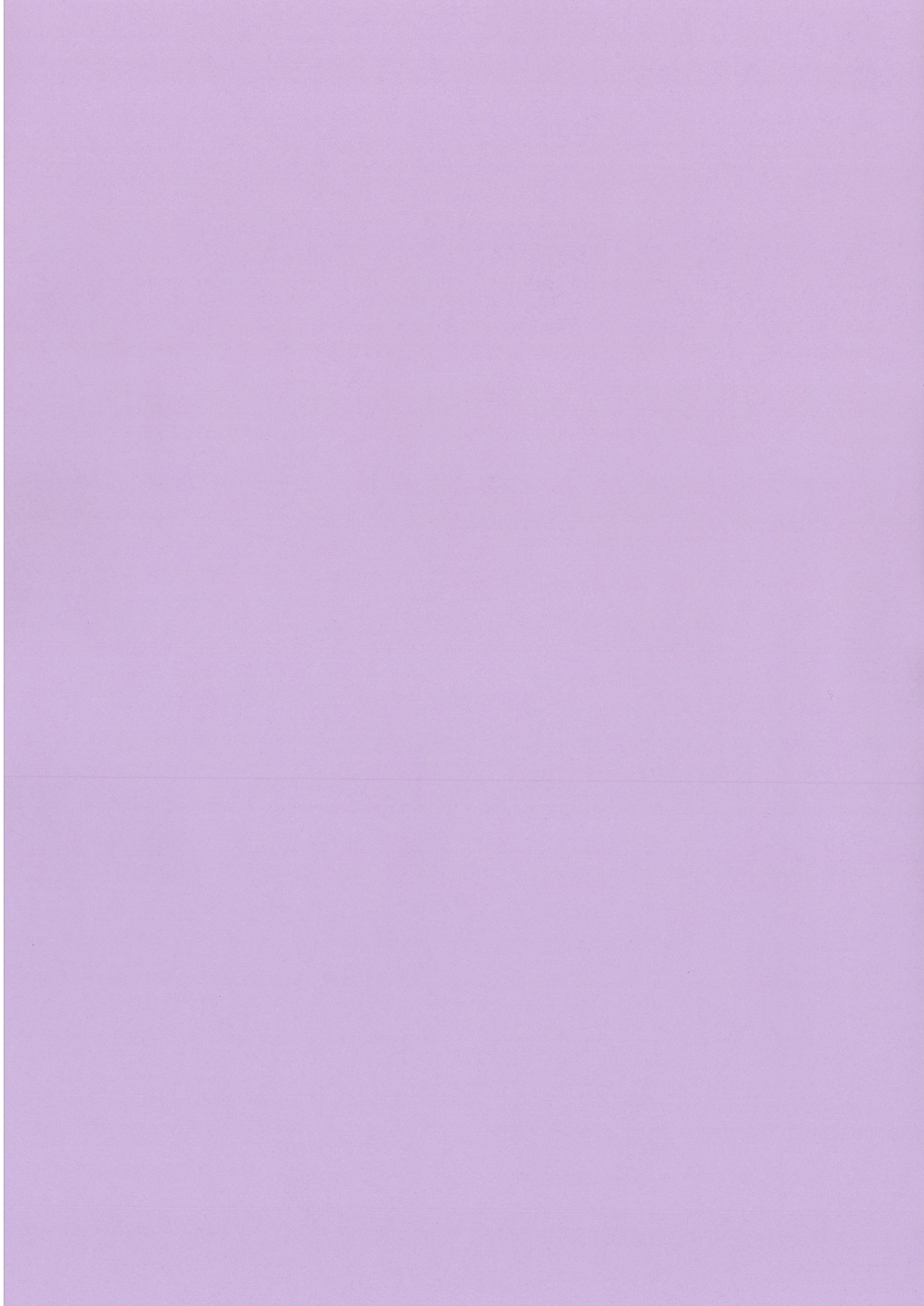
FD委員会

Published by Daiichi University of Pharmacy  
22-1 Tamagawa-cho, Minami-ku, Fukuoka 815-8511, Japan

## 目 次

学生授業評価アンケート報告 .....	1
1.アンケート調査実施要領 .....	3
2.アンケート集計結果 .....	9
3.学生コメント総括 .....	24
教員相互授業参観報告 .....	27
平成 30 年度「教員相互授業参観」実施要領 .....	31
教員による授業の自己評価報告 .....	33
FD 講習会報告 .....	41
第 1 回 学内 FD 講習会報告 .....	43
第 2 回 学内 FD 講習会報告 .....	50
学外 FD 研修会報告 .....	62





# 学生授業評価アンケート報告

平成 30 年度



## 1. アンケート調査実施要領

【目的】このアンケートは授業及び実習に関し学生の率直な意見を収集し、その結果を授業及び実習の質向上を図るために実施するものである。

### 【実施要領】

- (1) 調査対象者：1～6年次学生全員。
- (2) 調査対象授業：実務実習を除くすべての授業科目及び実習について、学期毎に実施した。
- (3) 実施方法：
  - ①マークシート用紙を用いて行う。
  - ②無記名とする。
  - ③集計作業にはFD委員があたる。
  - ④授業及び実習に対する学生の意見・要望は自由記述とした。
- (4) 実施時期：講義または実習の後半とし、科目担当教員が行った。
- (5) アンケートの解析：解析ソフト「丸ごと授業評価 for Windows」を用いた。
- (6) アンケートの調査項目：講義については、教員評価に関する質問（8項目）、学生自己評価に関する質問（4項目）及び自由記載欄を設けた。実習に関しては、教員評価に関する質問（9項目）、学生自己評価に関する質問（5項目）及び自由記載欄を設けた。
- (7) アンケート解析結果の表記：学年ごとに前期、後期に分けて、全科目の平均評定値を、グラフと表にして示した。
- (8) 調査結果の取り扱い
  - ①各教員へ結果資料を配布する。
  - ②授業及び実習に対するコメントは、当該教員が確認し、FD委員が総括する。
  - ③各教員は調査結果を授業及び実習に反映させる。
  - ④学生へは、「平成30年度FD活動報告書」として図書館、国試情報センター及び第一薬科大学ホームページにて公開する。

(資料 1) 授業アンケート調査項目と実際に使用されたアンケート用紙

<教員評価>

- ①授業中に到達目標（SBOs）がきちんと示されていた。
- ②シラバスとの整合性がとれていた。
- ③授業内容に興味がわくような工夫がされていた。
- ④授業内容を理解させる工夫がされていた。
- ⑤学生の理解度に応じた対策がされていた。
- ⑥説明は明瞭で聞きとりやすかった。
- ⑦黒板の文字やスライドの映像が見やすかった。
- ⑧授業に集中できる（私語をしない）環境作りに努めていた。

<学生自己評価>

- ⑨事前にシラバスを読んでこの授業に臨んだ。（頻度、程度を5段階で評価）
- ⑩予習をしてこの授業に臨んだ。（頻度、程度を5段階で評価）
- ⑪この授業の復習をした。（頻度、程度を5段階で評価）
- ⑫この授業の内容を理解できた。





(資料2) 実習アンケート調査項目と実際に使用されたアンケート用紙

<教員評価>

- ①実習中に到達目標（SBOs）がきちんと示されていた。
- ②シラバスとの整合性がとれていた。
- ③実習内容に興味がわくような工夫がされていた。
- ④実習内容を理解させる工夫がされていた。
- ⑤技能（手技・態度）を習得させる工夫がされていた。
- ⑥説明は明瞭で聞きとりやすかった。
- ⑦黒板の文字やスライドの映像が見やすかった。
- ⑧実習に集中できる（私語、居眠りなどをしない）環境作りに努めていた。
- ⑨実習のための設備や器具は十分に備わっており準備されていた。

<学生自己評価>

- ⑩事前にシラバスを読んでこの実習に臨んだ。（頻度、程度を5段階で評価）
- ⑪予習をしてこの実習に臨んだ。（頻度、程度を5段階で評価）
- ⑫この実習の復習をした。（頻度、程度を5段階で評価）
- ⑬この実習の内容を理解できた。
- ⑭この実習で学べる技能（手技・態度）を習得できた。

# 第一薬科大学 実習評価アンケート

実習名[ ] 担当分野名:( )

[ ]年[ ]組 男・女 平成[ ]年度 入学

アンケート調査実施日 H. 年 月 日

この実習アンケート調査は、学生の皆さんの貴重な意見を聞かせて頂くことで、皆さんの実習への取組みと向上心を高め、今後さらにより良い実習を行うためのものです。無記名で実施し、皆さんの成績・評価とはまったく関係ありませんので、有りのままの正直な気持ち・意見を書いてください。ご協力をお願いします。

※下記の設問について、最も当てはまると思う番号を①～⑤より1つ選び○で囲んだ後、それをマークシートに転記してください。わからない場合は、③を選んでください。

I この実習について意見を聞かせてください。	全くそう 思わない	←	普通	→	強く そう思う
①実習中に到達目標(SBOs)がきちんと示されていた。	①	②	③	④	⑤
②シラバスとの整合性がとれていた。	①	②	③	④	⑤
③実習内容に興味がわくような工夫がされていた。	①	②	③	④	⑤
④実習内容を理解させる工夫がされていた。	①	②	③	④	⑤
⑤技能(手技・態度)を習得させる工夫がされていた。	①	②	③	④	⑤
⑥説明は明瞭で聞きとりやすかった。	①	②	③	④	⑤
⑦黒板の文字やスライドの映像が見やすかった。	①	②	③	④	⑤
⑧実習に集中できる(私語、居眠りなどをしない)環境作りに努めていた。	①	②	③	④	⑤
⑨実習のための設備や器具は十分に備わっており準備されていた。	①	②	③	④	⑤

II あなた自身のこの実習への取組みと成果について意見を聞かせてください。	全くそう 思わない	←	普通	→	強く そう思う
⑩事前にシラバスを読んでこの実習に臨んだ。(頻度、程度を5段階で評価)	①	②	③	④	⑤
⑪予習をしてこの実習に臨んだ。(頻度、程度を5段階で評価)	①	②	③	④	⑤
⑫この実習の復習をした。(頻度、程度を5段階で評価)	①	②	③	④	⑤
⑬この実習の内容を理解できた。	①	②	③	④	⑤
⑭この実習で学べる技能(手技・態度)を習得できた。	①	②	③	④	⑤

III-1 この実習に関して、良かった点をお聞かせください。

(記入欄)

III-2 この実習に関して、改善して欲しい点をお聞かせください。

(記入欄)

(資料3) 実際に使用されたマークシート

回答用紙

1. 記入は、必ず11月の新字で、○の中を正確に塗りつぶして下さい。
2. 書き損じた場合には、プラスチック製消しゴムできれいに消して下さい。
3. 用紙を、折り曲げたり汚さないで下さい。



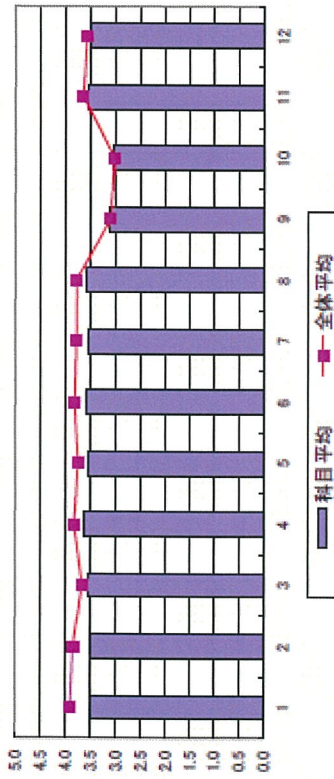
	A	B	C	D	E	F	G	H
問1	①	②	③	④	⑤			
問2	①	②	③	④	⑤			
問3	①	②	③	④	⑤			
問4	①	②	③	④	⑤			
問5	①	②	③	④	⑤			
問6	①	②	③	④	⑤			
問7	①	②	③	④	⑤			
問8	①	②	③	④	⑤			
問9	①	②	③	④	⑤			
問10	①	②	③	④	⑤			
問11	①	②	③	④	⑤			
問12	①	②	③	④	⑤			
問13	①	②	③	④	⑤			
問14	①	②	③	④	⑤			
問15	①	②	③	④	⑤			
問16	①	②	③	④	⑤			
問17	①	②	③	④	⑤			
問18	①	②	③	④	⑤			
問19	①	②	③	④	⑤			
問20	①	②	③	④	⑤			
問21	①	②	③	④	⑤			
問22	①	②	③	④	⑤			
問23	①	②	③	④	⑤			
問24	①	②	③	④	⑤			
問25	①	②	③	④	⑤			
問26	①	②	③	④	⑤			
問27	①	②	③	④	⑤			
問28	①	②	③	④	⑤			
問29	①	②	③	④	⑤			
問30	①	②	③	④	⑤			
問31	①	②	③	④	⑤			
問32	①	②	③	④	⑤			
問33	①	②	③	④	⑤			
問34	①	②	③	④	⑤			
問35	①	②	③	④	⑤			
問36	①	②	③	④	⑤			
問37	①	②	③	④	⑤			
問38	①	②	③	④	⑤			
問39	①	②	③	④	⑤			
問40	①	②	③	④	⑤			
問41	①	②	③	④	⑤			
問42	①	②	③	④	⑤			
問43	①	②	③	④	⑤			
問44	①	②	③	④	⑤			
問45	①	②	③	④	⑤			
問46	①	②	③	④	⑤			
問47	①	②	③	④	⑤			
問48	①	②	③	④	⑤			
問49	①	②	③	④	⑤			
問50	①	②	③	④	⑤			

集計結果表(グラフ付き)

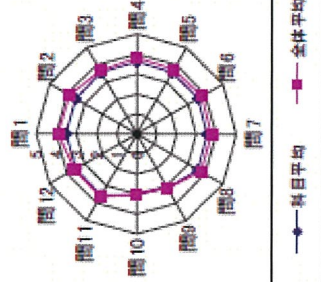
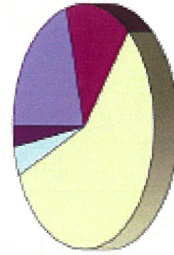
履修者数:  
対象者数:

授業アンケート

科	教員氏名	回答率(%)					無効	有効	平均
		5 強く思う	4 ←	3 普通	2 →	1 全く思わない			
1	授業中に到達目標(SBOs)がきちんと示されていた。	22.0	16.5	53.5	5.5	2.4	1	127	3.50
2	シラバスとの適合性が取れていた。	21.3	16.5	55.1	4.7	2.4	1	127	3.50
3	授業内容に興味がわくような工夫がされていた。	22.0	15.7	58.3	3.9	0.0	1	127	3.56
4	授業内容を理解させる工夫がされていた。	25.2	15.7	55.9	2.4	0.8	1	127	3.62
5	学生の理解度に応じた対策がされていた。	22.8	12.6	63.0	0.8	0.8	1	127	3.56
6	説明は明瞭で聞きとりやすかった。	23.6	17.3	55.1	2.4	1.6	1	127	3.59
7	黒板の文字やスライドの映像が見やすかった。	22.8	15.0	58.3	3.9	0.0	1	127	3.57
8	授業に集中できる(煩瑣でない)環境作りに努めていた。	23.6	14.2	59.8	1.6	0.8	1	127	3.58
9	事前にシラバスを熟読してこの授業に臨んだ。(頻度、程度を5段階で評価)	16.7	8.7	56.3	6.3	11.9	2	126	3.12
10	予習してこの授業に臨んだ。(頻度、程度を5段階で評価)	11.9	10.3	58.7	7.9	11.1	2	126	3.04
11	この授業の復習をした。(頻度、程度を5段階で評価)	21.6	17.6	56.0	4.0	0.8	3	125	3.55
12	この授業の内容を理解できた。	16.7	19.0	61.1	3.2	0.0	2	126	3.49



総合のグラフ



(資料5) 平成30年度アンケート調査マークシート回収状況

平成30年度前期			
学年	履修者数	回答者数	回答率
1年	2,830	2,311	81.7%
2年	2,369	2,033	85.8%
3年	1,888	1,634	86.5%
4年	1,231	962	78.1%
5年	128	178	71.9%
6年	973	459	47.2%
総計	9,419	7,577	80.4%

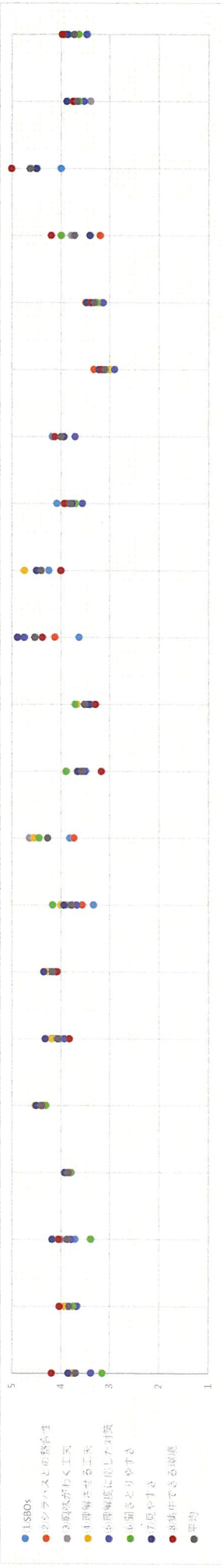
平成30年度後期			
学年	履修者数	回答者数	回答率
1年	2,830	2,215	78.3%
2年	2,364	1,836	77.7%
3年	1,804	1,318	73.1%
4年	279	194	69.5%
5年	158	103	65.2%
6年	—	—	—
総計	7,435	5,666	76.2%

## 2. アンケート集計結果

次ページから平成30年度 授業および実習評価結果のまとめを掲載する。

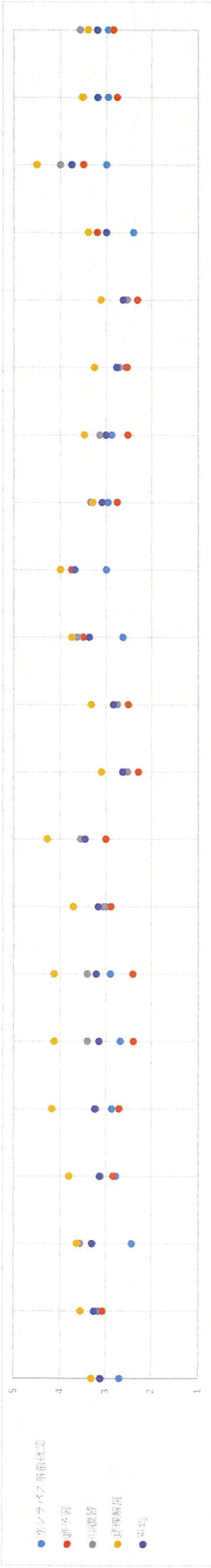
平成30年度 前期 1年生 授業評価 (教員評価) ①

科目名	薬学基礎英語Ⅰ		英会話Ⅰ		基礎数学Ⅰ		文学Ⅰ		福祉学Ⅰ		経済学Ⅰ		薬用資源学		文章表現論		フランス語Ⅰ		基礎物理学	
	漢1~4	薬1~4	薬	漢	3限	4限	3限	4限	3限	4限	3限	4限	A	B	薬	漢	薬	漢	薬	漢
クラス	3.69	3.67	3.71	4.38	3.33	3.32	3.39	3.54	3.39	3.54	3.63	4.25	4.08	4.18	3.41	3.14	3.2	4	3.75	3.85
①SBOs	3.73	3.7	3.86	4.36	3.56	3.73	3.45	3.56	3.45	3.56	4.13	4	3.9	4.13	3.49	3.32	3.2	4.5	3.73	3.93
②シラバスとの整合性	3.81	3.87	4	4.51	3.89	4.64	3.69	3.58	3.69	3.58	4.88	4.75	3.82	3.99	3	3.19	3.8	4.5	3.39	3.46
③興味がわく工夫	3.77	3.93	4.07	4.53	4	4.55	3.67	3.67	3.67	3.67	4.75	4.75	3.8	3.98	2.98	3.18	4	5	3.66	3.63
④理解度に応じた対策	3.38	3.67	3.79	4.31	3.67	4.45	3.5	4.45	3.5	3.51	4.75	4.5	3.56	3.71	2.9	3.13	4	4.5	3.52	3.47
⑤聞きとりやすさ	3.15	3.75	3.39	4.31	4.17	4.45	3.9	3.9	3.71	3.71	4.88	4.5	3.7	3.95	3.08	3.26	4	5	3.63	3.63
⑦見やすさ	3.85	4.03	4.18	4.51	3.94	4.27	3.65	3.41	3.41	3.41	4.88	4.5	3.77	3.94	3.22	3.47	3.4	4.5	3.88	3.87
⑧集中できる環境	4.19	4.03	4.04	4.39	3.78	4.27	3.17	3.29	3.17	3.17	4.38	4	3.93	4.13	3.17	3.37	4.2	5	3.75	3.97
平均	3.70	3.83	3.88	4.41	3.79	4.27	3.52	3.57	3.52	3.57	4.54	4.41	3.82	4.00	3.10	3.31	3.73	4.63	3.66	3.73



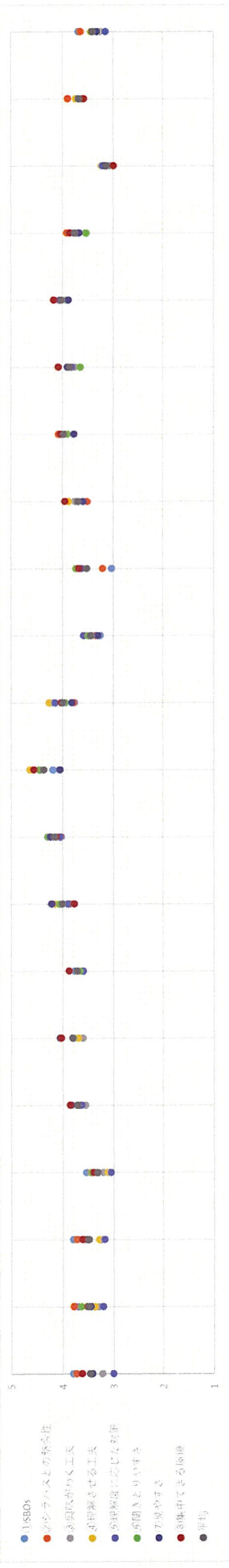
平成30年度 前期 1年生 授業評価 (学生自己評価) ①

科目名	薬学基礎英語Ⅰ		英会話Ⅰ		基礎数学Ⅰ		文学Ⅰ		福祉学Ⅰ		経済学Ⅰ		薬用資源学		文章表現論		フランス語Ⅰ		基礎物理学	
	漢1~4	薬1~4	薬	漢	3限	4限	3限	4限	3限	4限	3限	4限	A	B	薬	漢	薬	漢	薬	漢
クラス	2.69	3.17	2.43	2.87	3	3	2.6	2.75	2.6	2.75	2.63	3	2.96	2.88	2.56	2.54	2.4	3	2.96	2.96
⑨シラバス事前確認	3.12	3.07	3.57	2.84	2.89	3	2.29	2.51	2.53	2.75	3.5	3.75	2.76	2.52	2.54	2.31	3.2	3.5	2.76	2.84
⑩予習	3.31	3.24	3.57	3.12	3.06	3.55	2.53	2.75	2.53	2.75	3.63	4	3.34	3.14	2.71	2.54	3	4	3.51	3.57
⑪復習	3.31	3.55	3.64	4.18	3.71	4.27	3.1	3.33	3.1	3.33	3.75	4	3.3	3.48	3.26	3.12	3.4	4.5	3.53	3.4
⑫理解度	3.11	3.26	3.30	3.25	3.17	3.46	2.63	2.84	2.63	2.84	3.38	3.69	3.09	3.01	2.77	2.63	3.00	3.75	3.19	3.19



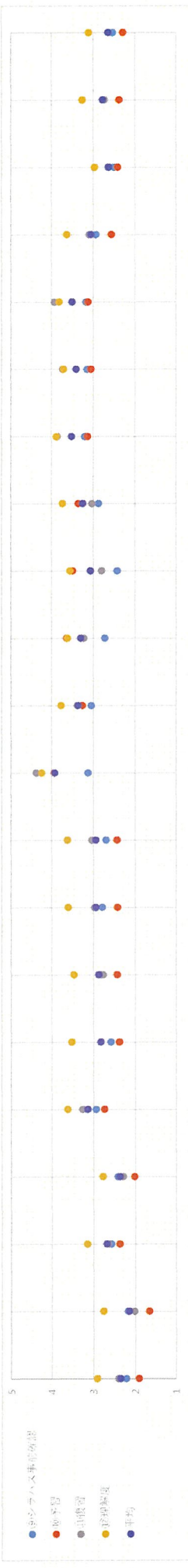
平成30年度 前期 1年生 授業評価 (教員評価) ②

科目名	哲学Ⅰ		倫理学Ⅰ		情報処理演習Ⅰ		心理学		中国語Ⅰ		薬学基礎英語Ⅰ		基礎化学Ⅰ		有機化学Ⅰ		本専学		法学Ⅰ		薬学への招待
	3限	4限	3限	4限	薬1~8	薬9~16	漢	A	B	漢	漢	漢5~8	漢13~16	全	A	B	漢	3限	4限	全	
クラス	3.8	3.7	3.8	3.54	3.64	3.8	3.77	3.86	4.03	4.19	3.77	3.27	3.04	3.52	4.05	3.89	4.01	3.8	3.08	3.64	3.69
①SBOs	3.74	3.79	3.73	3.45	3.68	3.7	3.72	3.88	4.05	4.06	3.79	3.36	3.22	3.52	4.08	3.88	4.04	3.92	3.14	3.9	3.65
②シラバスとの整合性	3.23	3.3	3.26	3.22	3.56	3.61	3.63	4.21	4.29	4.56	4.21	3.5	3.63	3.76	3.99	3.76	4.01	3.72	3.19	3.67	3.27
③興味がわく工夫	3.45	3.38	3.29	3.12	3.72	3.7	3.6	4.16	4.27	4.63	4.26	3.59	3.63	4.04	3.88	4.07	3.86	3.24	3.74	3.32	3.32
④理解度に応じた対策	3.01	3.22	3.19	3.06	3.64	3.8	3.6	3.9	4.06	4.44	4.15	3.59	3.63	3.68	3.96	3.82	4.06	3.74	3.22	3.67	3.16
⑤聞きとりやすさ	3.46	3.64	3.57	3.44	3.73	3.8	3.67	4.06	4.28	4.44	3.95	3.5	3.74	3.68	3.9	3.65	3.92	3.54	3.14	3.69	3.44
⑦見やすさ	3.43	3.46	3.52	3.34	3.84	4.06	3.88	4.22	4.24	4.06	3.82	3.32	3.67	3.78	3.91	3.89	3.68	3.16	3.59	3.33	3.33
⑧集中できる環境	3.63	3.52	3.62	3.4	3.86	4.04	3.88	3.78	4.14	4.56	4.03	3.45	3.69	4.04	4.09	4.18	3.86	3	3.59	3.42	3.42
平均	3.47	3.50	3.50	3.32	3.71	3.81	3.72	4.01	4.17	4.37	4.00	3.45	3.53	3.70	3.98	3.86	4.02	3.77	3.15	3.69	3.41



平成30年度 前期 1年生 授業評価 (学生自己評価) ②

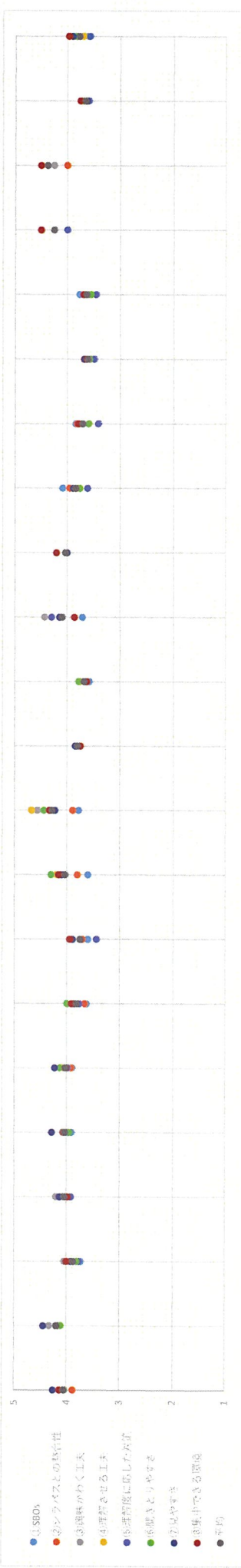
科目名	哲学Ⅰ		倫理学Ⅰ		情報処理演習Ⅰ		心理学		中国語Ⅰ		薬学基礎英語Ⅰ		基礎化学Ⅰ		有機化学Ⅰ		本専学		法学Ⅰ		薬学への招待
	3限	4限	3限	4限	薬1~8	薬9~16	漢	A	B	漢	漢	漢5~8	漢13~16	全	A	B	漢	3限	4限	全	
クラス	2.22	2.18	2.58	2.42	2.94	2.59	2.84	2.79	2.7	3.13	3.05	2.73	2.44	2.88	3.2	3.15	3.17	2.94	2.51	2.74	2.55
⑨シラバス事前確認	1.91	1.66	2.38	2.02	2.74	2.39	2.44	2.43	2.44	3.94	3.26	3.64	3.5	3.36	3.14	3.06	3.13	2.57	2.43	2.39	2.3
⑩予習	2.4	2.02	2.65	2.3	3.26	2.83	2.77	2.97	3.04	4.38	3.38	3.23	2.81	3.04	3.86	3.73	3.93	3.1	2.65	2.74	2.64
⑪復習	2.91	2.76	3.15	2.78	3.62	3.52	3.47	3.6	3.62	4.25	3.77	3.62	3.56	3.74	3.88	3.71	3.81	3.63	2.97	3.26	3.11
⑫理解度	2.36	2.16	2.69	2.38	3.14	2.83	2.88	2.95	2.95	3.93	3.37	3.31	3.08	3.26	3.52	3.41	3.51	3.06	2.64	2.78	2.65
平均	2.36	2.16	2.69	2.38	3.14	2.83	2.88	2.95	2.95	3.93	3.37	3.31	3.08	3.26	3.52	3.41	3.51	3.06	2.64	2.78	2.65





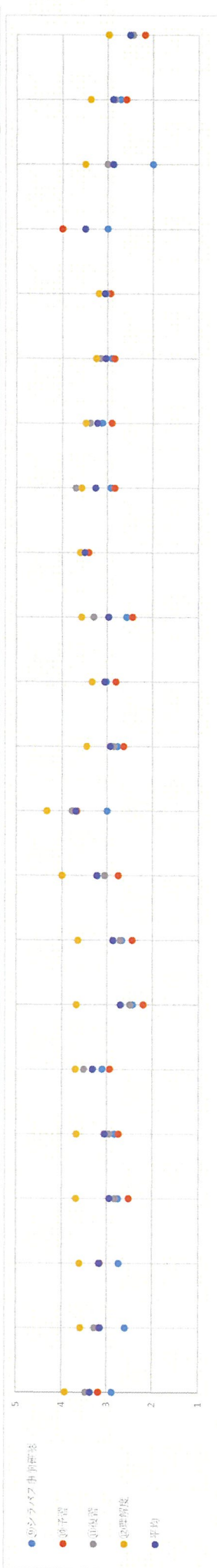
平成30年度 後期 1年生 授業評価 (教員評価) ①

科目名	薬学基礎英語 II		英会話 II		基礎数学 II		生命・医療倫理学		文学 II		福祉学 II		経済学 II		機能形態学 I		理論化学		フランス語 II		哲学 II	
	薬1~4	薬9~12	A	B	全	A	B	A	B	3限	4限	3限	4限	3限	4限	A	B	A	B	A	B	3限
クラス	3.88	3.73	3.97	3.91	3.9	3.63	3.6	3.78	3.58	3.71	4	4.08	3.84	3.65	3.77	4.5	4.25	4.25	3.64	3.8		
①SBOsとの整合性	3.88	3.81	4.02	3.95	3.92	3.66	3.71	3.89	3.65	3.86	4	3.95	3.81	3.68	3.69	4	4	3.62	3.8			
②シラバスとの整合性	4.13	4.04	4.2	4.07	3.98	3.82	3.76	4.05	3.75	4.43	4	3.82	3.75	3.6	3.6	4	4.25	3.63	3.7			
③興味をわく工夫	4.04	3.92	4.1	4.05	4.06	3.89	3.75	4.2	4.67	4.29	4	3.81	3.75	3.56	3.59	4	4.5	3.67	3.7			
④理解させる工夫	4.04	3.77	3.92	3.98	3.99	3.77	3.44	4.05	4.33	4.29	4	3.61	3.41	3.49	3.45	4	4.5	3.59	3.57			
⑤理解度に応じた対策	4.04	3.81	4.05	3.95	4.13	4	3.89	4.3	4.44	4.14	4	3.76	3.59	3.58	3.55	4.5	4.5	3.7	3.83			
⑥聞きとりやすさ	4.25	3.92	4.13	4.28	4.22	3.86	3.89	4.1	4.22	4.14	4	3.88	3.71	3.67	3.68	4.5	4.5	3.63	3.9			
⑦見やすさ	4.13	4	3.98	4.05	4.01	3.91	3.94	4.15	4.33	3.86	4.2	3.84	3.79	3.63	3.69	4.5	4.5	3.75	3.97			
⑧集中できる環境	4.05	3.88	4.05	4.03	4.03	3.82	3.75	4.03	4.28	3.86	4.03	3.80	3.67	3.61	3.63	4.25	4.38	3.65	3.77			
平均																						



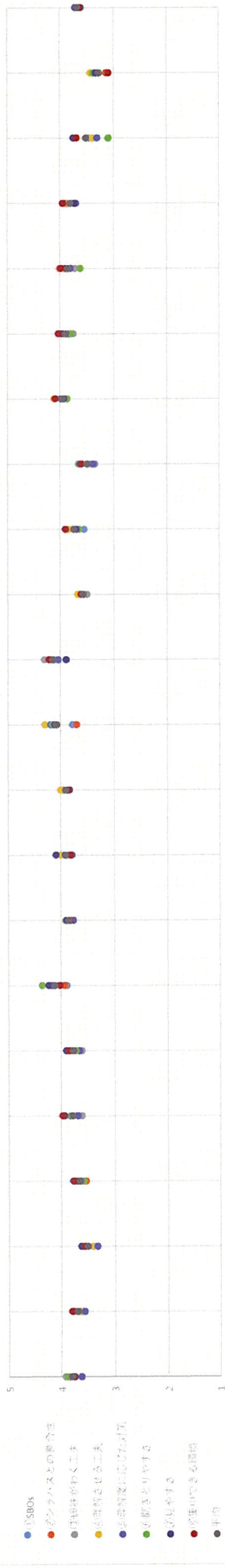
平成30年度 後期 1年生 授業評価 (学生自己評価) ①

科目名	薬学基礎英語 II		英会話 II		基礎数学 II		生命・医療倫理学		文学 II		福祉学 II		経済学 II		機能形態学 I		理論化学		フランス語 II		哲学 II	
	薬1~4	薬9~12	A	B	全	A	B	A	B	3限	4限	3限	4限	3限	4限	A	B	A	B	3限	4限	
クラス	2.88	2.73	2.75	2.83	3.1	2.43	2.67	3.05	3	2.77	3.02	2.57	3.4	2.92	3.11	2.9	3.05	3	2	2.71	2.43	
⑨シラバス事前確認	3.17	3.15	2.51	2.73	2.93	2.2	2.44	2.75	3.67	2.63	2.8	2.43	3.4	2.83	2.9	2.84	2.93	4	3	2.58	2.17	
⑩予習	3.46	3.16	2.82	2.95	3.51	2.49	2.71	3.05	3.78	2.85	3.04	3.29	3.6	3.7	3.38	3.15	3.03	3.5	3	2.83	2.43	
⑪復習	3.92	3.6	3.68	3.67	3.7	3.68	3.65	4	4.33	3.45	3.33	3.57	3.6	3.57	3.48	3.25	3.19	3.5	3.5	3.37	2.97	
⑫理解度	3.36	3.16	2.94	3.05	3.31	2.70	2.87	3.21	3.70	2.93	3.05	2.97	3.50	3.22	3.22	3.04	3.05	3.50	2.88	2.87	2.50	
平均																						



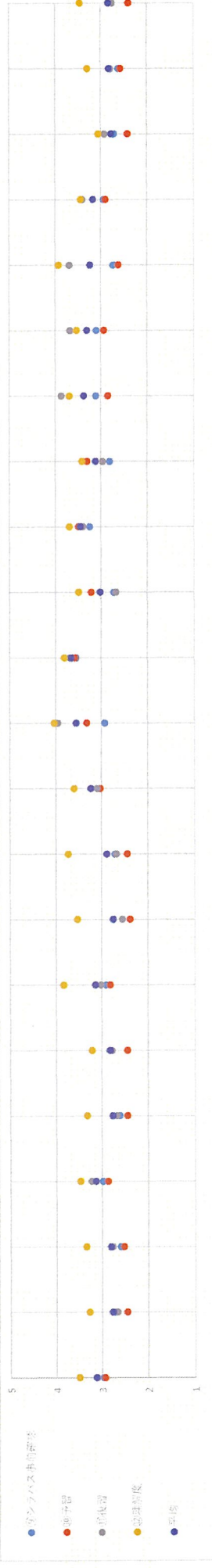
平成30年度 後期 1年生 授業評価 (教員評価) ②

科目名	基礎生物学		倫理学II		情報処理演習II		コミュニケーション論		中国語II		薬学基礎英語II		有機化学II		基礎化学II		法学II				
	全	4限	葉1~8	葉9~16	漢	A前	A後	B前	B後	A	B	葉5~8	葉13~16	A	B	A	B	全	3限	4限	
クラス																					
①SBOs	3.86	3.7	3.56	3.81	3.8	3.89	3.85	3.88	3.94	3.78	4.11	3.56	3.35	3.87	3.89	3.89	3.92	3.69	3.14	3.68	
②シラバスとの整合性	3.86	3.7	3.59	3.69	3.85	3.93	3.85	3.85	3.94	3.7	4.19	3.5	3.42	3.88	3.93	4	3.87	3.73	3.14	3.71	
③興味がわく工夫	3.92	3.62	3.41	3.59	3.61	4.2	3.89	3.85	3.87	4.3	4.3	3.5	3.42	3.88	3.75	3.72	3.71	3.45	3.29	3.68	
④理解させる工夫	3.77	3.65	3.41	3.67	3.73	4.16	3.81	4	4	4.3	4.22	3.67	3.5	4.11	3.89	3.92	3.84	3.39	3.43	3.71	
⑤理解度に応じた対策	3.63	3.57	3.33	3.7	3.66	4.16	3.77	3.79	3.9	4.19	4.04	3.56	3.38	3.98	3.83	3.8	3.7	3.31	3.38	3.71	
⑥聞きとりやすさ	3.88	3.72	3.56	3.59	3.73	4.36	3.91	4.09	3.9	4.15	4.15	3.65	3.65	3.87	3.79	3.62	3.79	3.1	3.38	3.68	
⑦見やすさ	3.76	3.79	3.63	3.78	3.94	4.24	3.89	4.09	3.84	4.11	3.89	3.61	3.62	3.93	3.97	3.89	3.73	3.75	3.33	3.61	
⑧集中できる環境	3.78	3.8	3.56	3.76	3.85	4.02	3.83	3.82	3.87	4.07	4.22	3.9	3.6	4.09	4.03	3.98	3.95	3.69	3.1	3.64	
平均	3.81	3.69	3.51	3.65	3.77	4.12	3.85	3.92	3.91	4.08	4.14	3.57	3.49	3.95	3.89	3.85	3.81	3.51	3.27	3.68	



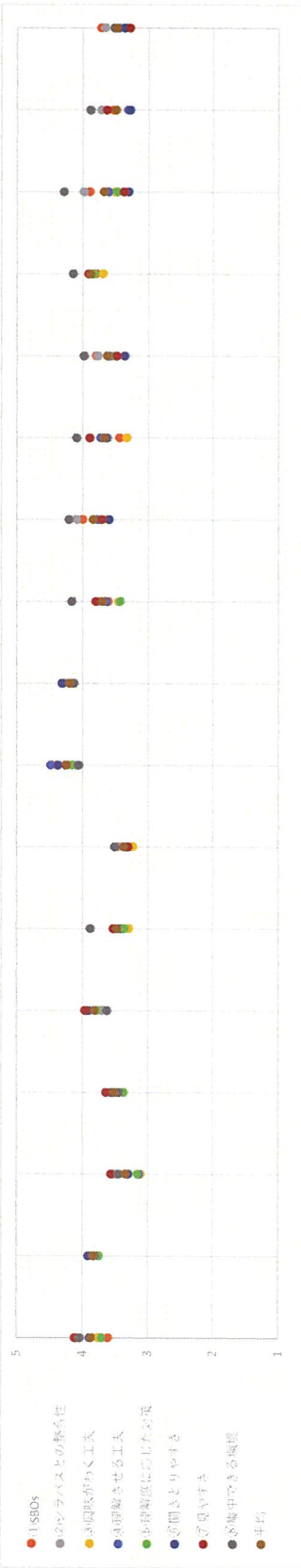
平成30年度 後期 1年生 授業評価 (学生自己評価) ②

科目名	基礎生物学		倫理学II		情報処理演習II		コミュニケーション論		中国語II		薬学基礎英語II		有機化学II		基礎化学II		法学II					
	全	3限	4限	葉1~8	葉9~16	漢	A前	A後	B前	B後	A	B	葉5~8	葉13~16	A	B	A	B	全	3限	4限	
クラス																						
⑨シラバス事前確認	2.97	2.7	2.59	2.98	2.61	2.83	2.91	2.55	2.71	3.23	2.93	3.56	2.72	2.81	3.11	3.1	2.73	2.94	2.71	2.62	2.75	
⑩予習	2.94	2.45	2.52	2.87	2.44	2.44	2.82	2.38	2.44	3.03	3.33	3.59	3.22	3.31	2.85	2.94	2.62	2.9	2.41	2.57	2.39	
⑪復習	3.11	2.66	2.77	3.23	2.67	2.78	3.02	2.55	2.68	3.1	3.96	3.7	2.67	2.96	3.87	3.68	3.7	3.41	2.92	2.8	2.75	
⑫理解度	3.51	3.28	3.35	3.48	3.33	3.22	3.84	3.54	3.74	3.61	4.04	3.81	3.5	3.42	3.7	3.54	3.93	3.45	3.06	3.3	3.46	
平均	3.13	2.77	2.81	3.14	2.76	2.82	3.15	2.76	2.89	3.24	3.57	3.67	3.03	3.13	3.38	3.32	3.25	3.18	2.78	2.82	2.84	



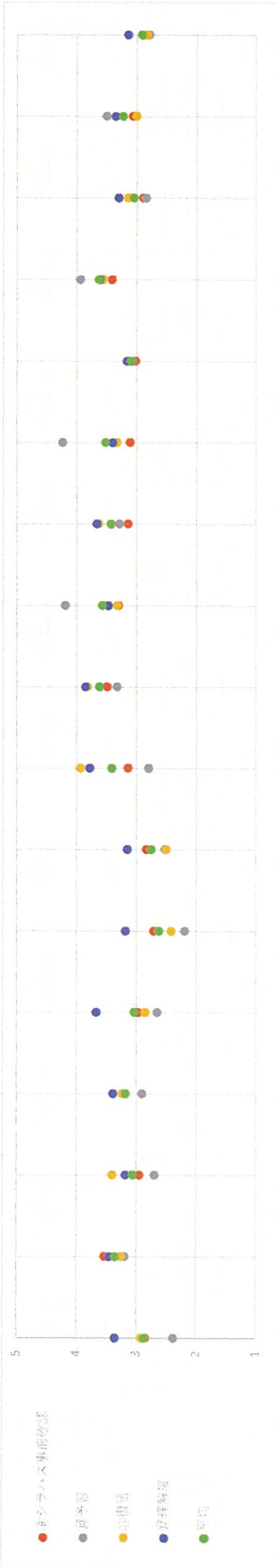
平成30年度 前期 2年生 授業評価 (教員評価) ①

科目名	基礎統計学				無機化学				臨床心理学				医療コミュニケーション論				薬理学 I				薬学英語			
	A		B		A		B		薬		A		B		A		B		A後		B前		B後	
	3.61	3.84	3.75	3.84	3.14	3.16	3.75	3.84	3.14	3.49	3.91	3.79	3.36	3.3	4.16	4.18	3.43	3.71	3.64	3.5	3.83	3.48	3.28	3.34
クラス	3.61	3.84	3.75	3.84	3.14	3.16	3.75	3.84	3.14	3.49	3.91	3.79	3.36	3.3	4.16	4.18	3.43	3.71	3.64	3.5	3.83	3.48	3.28	3.34
①SBOs	3.75	3.84	3.75	3.84	3.14	3.16	3.75	3.84	3.14	3.49	3.91	3.79	3.36	3.3	4.16	4.18	3.43	3.71	3.64	3.5	3.83	3.48	3.28	3.34
②シラバスとの整合性	3.76	3.84	3.76	3.84	3.11	3.46	3.91	3.91	3.42	3.34	4.48	4.28	4.18	4.18	4.18	4.18	4.18	4.18	4.18	4.18	4.18	4.18	4.18	4.18
③興味をわく工夫	3.89	3.84	3.89	3.84	3.14	3.49	3.91	3.91	3.42	3.34	4.48	4.28	4.18	4.18	4.18	4.18	4.18	4.18	4.18	4.18	4.18	4.18	4.18	4.18
④理解度に応じた対策	4.09	3.91	4.09	3.91	3.3	3.55	3.93	3.93	3.52	3.34	4.37	4.31	3.7	3.64	3.64	3.64	3.64	3.64	3.64	3.64	3.64	3.64	3.64	3.64
⑥聞きとりやすさ	4.11	3.84	4.11	3.84	3.56	3.64	3.96	3.96	3.53	3.3	4.25	4.18	3.8	3.71	3.89	3.89	3.89	3.89	3.89	3.89	3.89	3.89	3.89	3.89
⑦見やすさ	4.04	3.81	4.04	3.81	3.45	3.45	3.63	3.63	3.88	3.51	4.06	4.13	4.16	4.2	4.09	3.98	4.14	4.28	4.09	3.98	4.14	4.28	3.88	3.52
⑧集中できる環境	3.87	3.83	3.87	3.83	3.34	3.52	3.82	3.82	3.48	3.37	4.24	4.20	3.70	3.84	3.67	3.63	3.88	3.68	3.67	3.63	3.88	3.49	3.48	3.48
平均	3.87	3.83	3.87	3.83	3.34	3.52	3.82	3.82	3.48	3.37	4.24	4.20	3.70	3.84	3.67	3.63	3.88	3.68	3.67	3.63	3.88	3.49	3.48	3.48



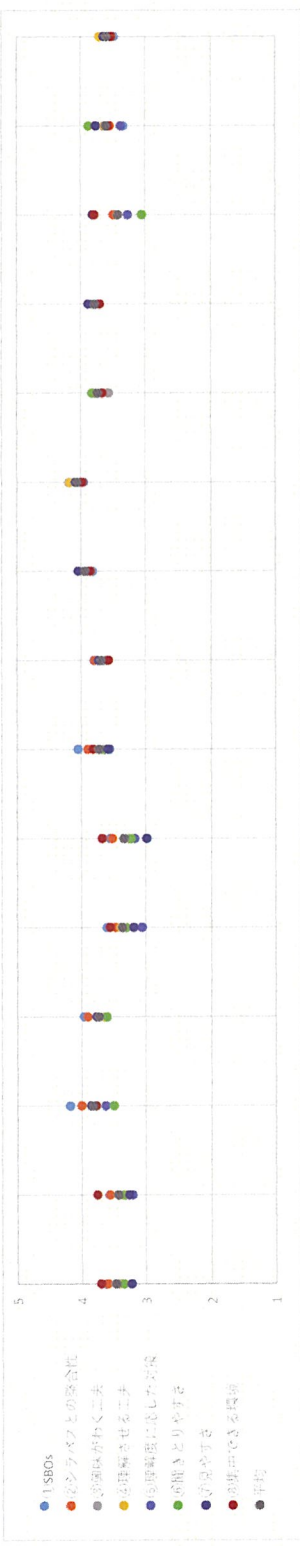
平成30年度 前期 2年生 授業評価 (学生自己評価) ①

科目名	基礎統計学				無機化学				臨床心理学				医療コミュニケーション論				薬理学 I				薬学英語			
	A		B		A		B		薬		A		B		A		B		A後		B前		B後	
	2.85	3.53	2.39	3.19	2.92	3.25	3.36	3.45	2.88	3.36	2.88	3.04	3.18	3.18	2.63	2.76	3.41	3.62	3.43	3.52	3.09	3.63	3.04	2.92
クラス	2.85	3.53	2.39	3.19	2.92	3.25	3.36	3.45	2.88	3.36	2.88	3.04	3.18	3.18	2.63	2.76	3.41	3.62	3.43	3.52	3.09	3.63	3.04	2.92
⑨シラバス事前確認	2.85	3.53	2.39	3.19	2.92	3.25	3.36	3.45	2.88	3.36	2.88	3.04	3.18	3.18	2.63	2.76	3.41	3.62	3.43	3.52	3.09	3.63	3.04	2.92
⑩予習	2.39	3.19	2.39	3.19	2.7	2.91	2.66	2.66	2.2	2.53	3.33	3.33	4.19	3.29	4.24	3.07	3.94	2.84	4.24	3.07	3.94	2.84	3.5	2.79
⑪復習	2.92	3.25	2.92	3.25	3.4	3.23	2.86	2.86	2.42	2.51	3.93	3.82	3.32	3.63	3.33	3.11	3.55	3.14	3.33	3.11	3.55	3.14	3	2.83
⑫理解度	3.36	3.45	3.36	3.45	3.18	3.39	3.67	3.67	3.18	3.15	3.78	3.85	3.47	3.66	3.4	3.16	3.61	3.3	3.4	3.16	3.61	3.3	3.35	3.14
平均	2.88	3.36	2.88	3.36	3.06	3.18	3.04	3.04	2.63	2.76	3.41	3.62	3.57	3.43	3.52	3.09	3.63	3.43	3.52	3.09	3.63	3.04	3.23	2.92



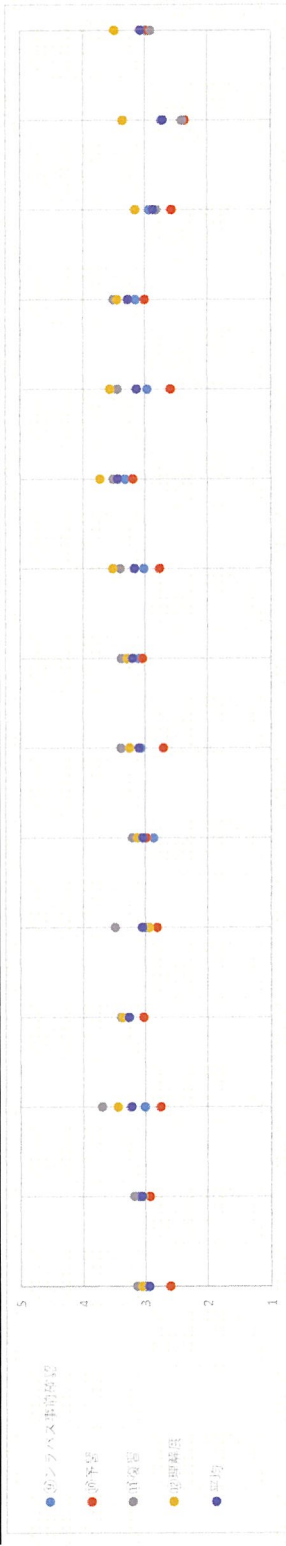
平成30年度 前期 2年生 授業評価 (教員評価) ②

科目名	微生物学Ⅰ		機能形態学Ⅱ		有機化学Ⅲ		物理化学Ⅰ		生命科学Ⅰ		分析化学Ⅰ		漢方薬理学		プレゼンテーション論	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
クラス	3.62	3.56	4.18	3.96	3.6	3.55	4.05	3.79	3.81	4.04	3.72	3.75	3.44	3.33	3.48	3.48
①SBOs	3.59	3.55	4	3.9	3.46	3.51	3.89	3.78	3.9	3.98	3.76	3.78	3.48	3.54	3.52	3.7
②シラバスとの整合性	3.47	3.42	3.78	3.61	3.34	3.32	3.55	3.69	3.97	4.19	3.56	3.7	3.26	3.75	3.7	3.7
③興味をわく工夫	3.41	3.35	3.85	3.64	3.38	3.25	3.67	3.66	4.01	4.18	3.78	3.8	3.26	3.63	3.7	3.7
④理解させる工夫	3.34	3.2	3.62	3.6	3.05	3.16	3.56	3.6	3.87	3.96	3.81	3.78	3.26	3.37	3.54	3.54
⑤理解度に応じた対策	3.34	3.32	3.49	3.6	3.3	3.22	3.63	3.64	4.03	4.09	3.82	3.83	3.04	3.87	3.64	3.64
⑥聞きとりやすさ	3.22	3.25	3.85	3.76	3.18	2.98	3.58	3.72	4.05	4.09	3.73	3.88	3.81	3.76	3.64	3.64
⑦見やすさ	3.7	3.75	3.77	3.72	3.55	3.67	3.81	3.57	3.85	3.98	3.66	3.7	3.78	3.57	3.52	3.52
⑧集中できる環境	3.46	3.43	3.82	3.72	3.36	3.33	3.72	3.68	3.94	4.06	3.73	3.78	3.42	3.60	3.59	3.59
平均																



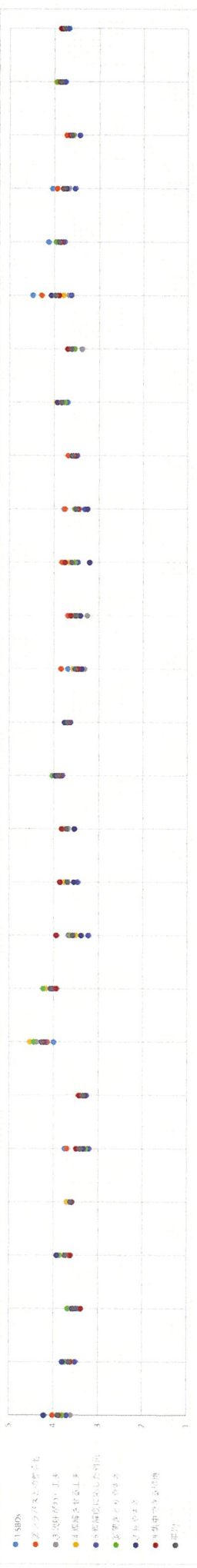
平成30年度 前期 2年生 授業評価 (学生自己評価) ②

科目名	微生物学Ⅰ		機能形態学Ⅱ		有機化学Ⅲ		物理化学Ⅰ		生命科学Ⅰ		分析化学Ⅰ		漢方薬理学		プレゼンテーション論	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
クラス	3	3.1	3	3.26	2.99	2.86	3.07	3.1	3.01	3.32	2.96	3.15	2.93	2.72	2.98	2.98
⑨シラバス事前確認	2.59	2.92	2.74	3.02	2.8	2.98	2.69	3.03	2.75	3.19	2.58	3	2.56	2.36	2.94	2.94
⑩予習	3.13	3.17	3.69	3.38	3.48	3.2	3.38	3.37	3.39	3.51	3.44	3.5	2.81	2.4	2.9	2.9
⑪復習	3.05	3.03	3.43	3.36	2.93	3.12	3.24	3.28	3.51	3.72	3.56	3.44	3.15	3.35	3.48	3.48
⑫理解度	2.94	3.06	3.22	3.26	3.05	3.04	3.10	3.20	3.17	3.44	3.14	3.27	2.86	2.71	3.08	3.08
平均																



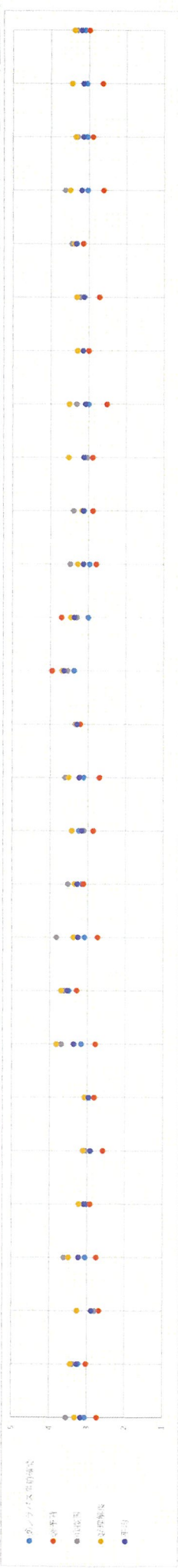
平成30年度 後期 2年生 授業評価 (教員評価)

科目名	放射化学		介選概論		分析化学II		医療統計学		薬理学II		微生物学		生薬学		有機化学演習		有機化学IV		早期臨床体験		病態薬物治療学I		物理化学II		環境衛生学I		生命科学II	
	A	B	全	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	
クラス																												
①SBOs	4.21	3.81	3.44	3.71	3.64	3.75	3.33	4	4.04	3.67	3.84	3.75	3.83	3.71	3.69	3.51	3.77	3.78	3.69	3.7	3.64	4.48	4.13	4.04	3.68	3.75	3.67	
②シラバスとの整合性	4.01	3.66	3.6	3.67	3.6	3.7	3.44	4	4.14	3.64	3.69	3.79	3.92	3.68	3.84	3.69	3.82	3.76	3.69	3.95	3.7	4.28	3.91	3.94	3.72	3.8	3.77	
③興味を引く工夫	3.61	3.55	3.58	3.61	3.62	3.25	3.31	4.38	4.06	3.58	3.69	3.68	3.92	3.71	3.32	3.26	3.6	3.44	3.52	3.78	3.39	3.68	3.77	3.68	3.57	3.86	3.73	
④理解を促す工夫	3.78	3.58	3.76	3.7	3.7	3.27	3.29	4.53	4.17	3.51	3.76	3.75	3.85	3.63	3.57	3.44	3.65	3.51	3.53	3.95	3.63	3.8	3.81	3.76	3.6	3.95	3.81	
⑤理解促進に向けた対策	3.7	3.51	3.48	3.74	3.58	3.21	3.27	4.18	4.06	3.23	3.47	3.71	3.81	3.63	3.44	3.56	3.47	3.32	3.49	3.73	3.61	3.62	3.79	3.54	3.43	3.76	3.69	
⑥聞きとりやすさ	3.81	3.74	3.68	3.86	3.62	3.28	3.36	4.44	4.23	3.62	3.71	3.71	4.03	3.76	3.49	3.56	3.53	3.54	3.56	3.76	3.55	3.95	3.96	3.73	3.58	3.94	3.85	
⑦見やすさ	4.2	3.79	3.57	3.92	3.62	3.34	3.31	4.23	4.04	3.39	3.55	3.54	3.96	3.76	3.38	3.41	3.21	3.26	3.6	3.49	3.32	4.06	3.87	3.73	3.64	3.84	3.81	
⑧集中できる環境	3.87	3.62	3.39	3.62	3.6	3.49	3.42	4.22	3.94	3.94	3.86	3.82	3.87	3.68	3.47	3.62	3.75	3.46	3.54	3.84	3.7	3.89	3.85	3.8	3.64	3.87	3.84	
平均	3.90	3.66	3.54	3.74	3.62	3.41	3.34	4.27	4.07	3.57	3.70	3.72	3.90	3.70	3.53	3.51	3.60	3.51	3.58	3.83	3.62	3.97	3.89	3.78	3.61	3.85	3.77	

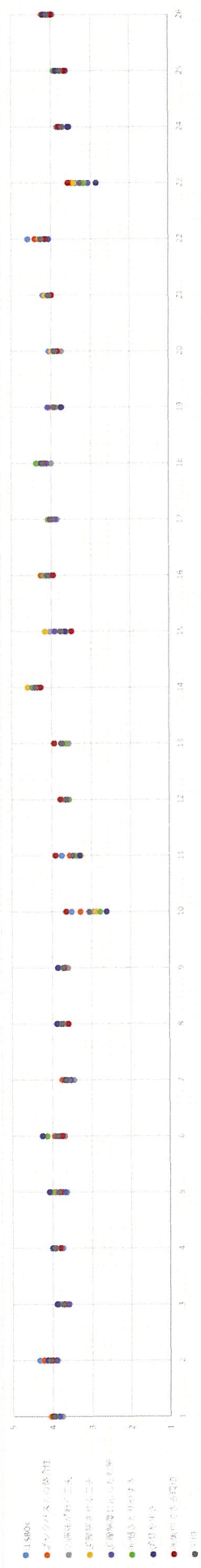


平成30年度 後期 2年生 授業評価 (学生自己評価)

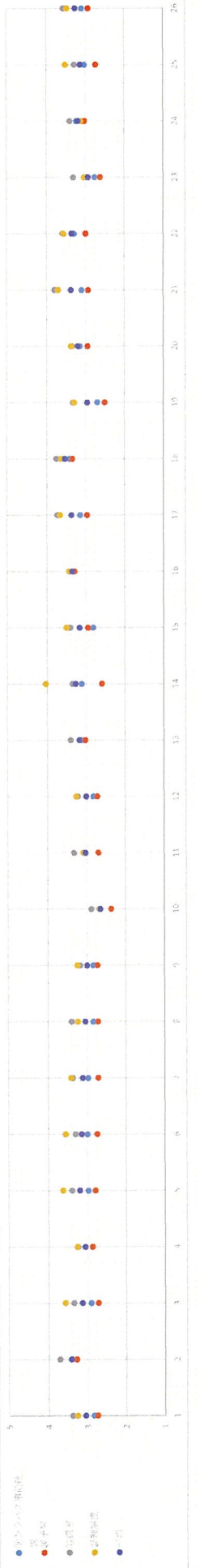
科目名	放射化学		介選概論		分析化学II		医療統計学		薬理学II		微生物学		生薬学		有機化学演習		有機化学IV		早期臨床体験		病態薬物治療学I		物理化学II		環境衛生学I		生命科学II	
	A	B	全	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	
クラス																												
⑨シラバス事前確認	3.06	3.23	2.8	3.05	3.02	2.92	2.86	3.17	3.17	3.5	3.09	3.16	3.12	3.33	3.37	3	2.97	3.12	3.06	3	3.15	3.22	3.36	3.03	3.04	3.05	3.1	
⑩予習	2.73	3.02	2.67	2.75	2.92	2.82	2.82	2.79	3.29	2.74	3.12	2.86	2.69	3.2	3.95	3.7	2.79	2.88	2.89	2.51	3	2.72	3.15	2.61	2.89	2.63	2.98	
⑪復習	3.55	3.38	2.81	3.61	3.1	3.04	3.02	3.69	3.63	3.83	3.53	3.11	3.6	3.32	3.54	3.3	3.48	3.39	3.03	3.32	3.15	3.23	3.45	3.62	3.3	3.44	3.31	
⑫理解度	3.32	3.44	3.26	3.49	3.22	3.11	3.07	3.82	3.7	3.82	3.7	3.38	3.35	3.32	3.68	3.46	3.28	3.17	3.52	3.51	3.3	3.32	3.38	3.49	3.34	3.44	3.37	
平均	3.17	3.27	2.89	3.23	3.07	2.91	2.97	3.37	3.53	3.26	3.29	3.16	3.23	3.29	3.64	3.37	3.13	3.14	3.13	3.09	3.15	3.12	3.34	3.19	3.14	3.14	3.19	



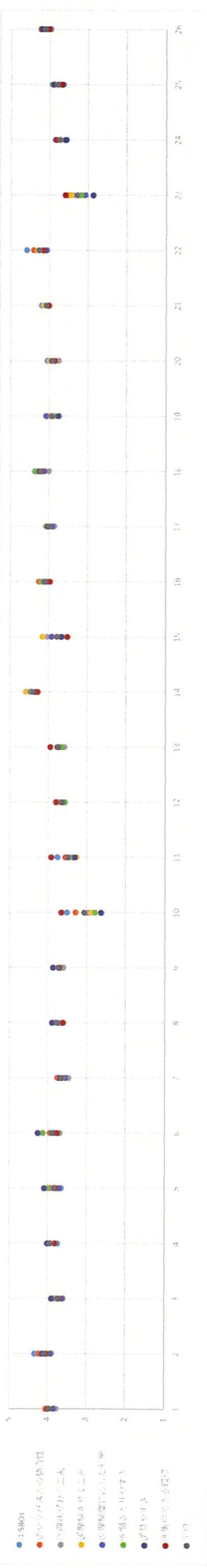
科目名	物理化学Ⅲ		病態薬物治療学Ⅱ		病態薬物治療学Ⅲ		分析化学Ⅲ		物理系演習		食品衛生学Ⅰ		免疫学		薬理学Ⅰ		生命科学Ⅲ		環境衛生学Ⅱ		有機化学Ⅴ		薬理学Ⅲ		
	A	B	A	B	A	B	A	B	全	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
①SROS	4.04	4.33	3.7	3.75	3.65	3.75	3.74	3.71	3.64	3.51	3.76	3.59	3.76	3.66	4.26	4.02	4.35	4.04	4.05	4.2	4.59	3.4	3.85	3.73	3.97
②シラバスとの整合性	4.04	4.22	3.75	4	3.93	3.94	3.75	3.75	3.68	3.28	3.55	3.66	3.71	4.32	4.26	3.98	4.19	4.04	3.98	4.07	4.41	3.51	3.76	3.88	4.23
③興味がわく工夫	3.77	3.89	3.59	3.94	3.75	3.69	3.46	3.64	3.6	2.95	3.36	3.67	3.58	4.48	4.11	3.86	4	3.74	3.75	4	4.13	3.23	3.76	3.71	4.1
④理解させる工夫	4.02	3.96	3.79	4	3.63	3.81	3.66	3.83	3.73	2.88	3.27	3.71	3.76	4.6	4.16	4.08	4.25	3.97	3.98	4.15	4.3	3.44	3.71	3.9	4.2
⑤理解度に応じた対策	3.84	3.91	3.61	3.94	3.7	3.81	3.54	3.8	3.71	2.78	3.3	3.59	3.76	4.48	4.04	3.9	4.12	4.08	3.93	4.08	4.07	3.07	3.59	3.64	4.03
⑥暇きとりやすさ	3.95	4.07	3.7	3.84	4	4.13	3.62	3.84	3.86	2.46	2.62	3.3	3.64	3.76	3.96	4.03	4.25	3.76	3.93	4.05	4.15	2.86	3.56	3.89	4.2
⑦見やすさ	4	4.13	3.89	4	4.08	4.25	3.68	3.88	3.86	3.7	3.65	3.91	3.79	3.94	4	4.19	3.93	3.85	4	4.17	3.58	3.82	3.67	4	
⑧集中できる環境	4	4.02	3.71	3.81	3.8	3.75	3.63	3.6	3.7	3.65	3.48	3.65	3.74	4.42	4.12	3.99	4.22	3.93	3.92	4.07	3.28	3.73	3.79	4.11	
平均	3.96	4.07	3.74	3.93	3.84	3.89	3.64	3.76	3.72	3.06	3.48	3.65	3.74	4.42	4.12	3.99	4.22	3.93	3.92	4.07	3.28	3.73	3.79	4.11	



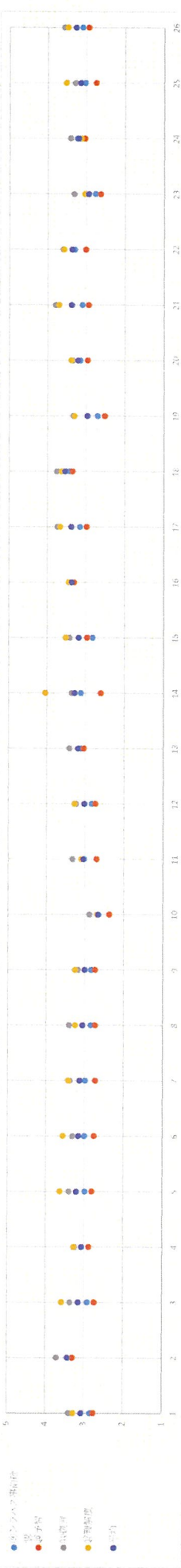
科目名	物理化学Ⅲ		病態薬物治療学Ⅱ		病態薬物治療学Ⅲ		分析化学Ⅲ		物理系演習		食品衛生学Ⅰ		免疫学		薬理学Ⅰ		生命科学Ⅲ		環境衛生学Ⅱ		有機化学Ⅴ		薬理学Ⅲ	
	A	B	A	B	A	B	A	B	全	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A
①SROS	2.84	3.3	2.91	2.88	2.98	2.84	2.98	2.84	2.84	2.68	3.03	2.83	3.12	3.12	3.42	2.7	3.15	3.1	3.1	3.3	2.77	3.24	3.03	3.1
②シラバス事前確認	2.75	3.29	2.73	2.88	2.72	2.72	2.72	2.73	2.73	2.37	2.7	2.73	3.03	2.6	2.95	3.3	2.97	2.93	2.93	3	2.63	3.03	2.74	2.93
③演習	3.39	3.71	3.36	3.25	3.4	3.31	3.38	3.4	3.17	2.88	3.33	3.23	3.41	3.36	3.41	3.41	3.73	3.35	3.79	3.59	3.32	3.41	3.29	3.57
④復習	3.27	3.41	3.58	3.27	3.63	3.56	3.42	3.24	3.25	2.68	3.09	3.27	3.18	4.04	3.51	3.44	3.66	3.3	3.38	3.7	3.57	3.04	3.12	3.52
⑤理解度	3.06	3.43	3.15	3.07	3.20	3.16	3.13	3.05	3.00	2.65	3.04	3.02	3.19	3.28	3.17	3.36	3.38	2.96	3.21	3.38	2.94	3.20	3.15	3.27
平均	3.06	3.43	3.15	3.07	3.20	3.16	3.13	3.05	3.00	2.65	3.04	3.02	3.19	3.28	3.17	3.36	3.38	2.96	3.21	3.38	2.94	3.20	3.15	3.27



科目名	物理化学III		病態薬物治療学II		病態薬物治療学III		分析化学III		物理系演習		食品衛生学I		免疫学		薬理学I		物理薬理学		生命科学III		環境衛生学II		有機化学V		薬理学III	
	A	B	A	B	A	B	A	B	全	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A
クラス	4.04	4.33	3.7	3.75	3.65	3.75	3.74	3.71	3.64	3.51	3.76	3.59	3.76	4.26	4.35	4.03	4.05	4.2	4.59	4.2	4.59	3.4	3.85	3.73	3.97	
①シラバスとの整合性	4.04	4.22	3.75	3.94	3.93	3.94	3.75	3.75	3.68	3.28	3.55	3.66	3.71	4.32	4.19	4.04	3.98	4.07	4.41	3.51	3.76	3.76	3.88	4.23	4.23	
②教材がわかる工夫	3.77	3.89	3.59	3.94	3.75	3.69	3.46	3.64	3.6	2.95	3.36	3.67	3.58	4.48	4.03	4.11	3.86	4	4.13	3.75	4	4.13	3.76	3.71	4.1	
③理解させる工夫	4.02	3.96	3.79	4	3.83	3.81	3.66	3.83	3.73	2.88	3.27	3.71	3.76	4.6	4.16	4.15	4.08	4.25	3.97	3.98	4.15	4.3	3.44	3.71	3.9	
④理解度に応じた対策	3.84	3.91	3.61	3.94	3.7	3.81	3.54	3.8	3.71	2.78	3.3	3.59	3.76	4.48	3.92	4.04	3.9	4.12	4.08	4.07	4.08	4.07	3.07	3.59	3.64	
⑤聞きとりやすさ	3.95	4.07	3.84	4	4	4.13	3.82	3.84	3.86	2.78	3.39	3.57	3.65	4.46	3.64	4.19	4.07	4.37	3.88	3.85	4.03	4.28	3.18	3.79	3.93	
⑥聞きとれる環境	4	4.13	3.89	4	4.08	4.25	3.68	3.88	3.86	2.62	3.3	3.64	3.76	4.36	3.67	3.96	4.03	4.25	3.76	3.93	4.05	4.15	2.86	3.56	3.89	
⑦集中できる環境	4	4.02	3.71	3.93	3.81	3.8	3.63	3.6	3.7	3.65	3.91	3.79	3.94	4.28	3.51	3.96	4	4.19	3.93	3.85	4	4.17	3.58	3.82	3.67	
平均	3.96	4.07	3.74	3.93	3.84	3.89	3.64	3.76	3.72	3.06	3.48	3.65	3.74	4.42	3.78	4.12	3.99	4.22	3.93	3.92	4.07	4.26	3.28	3.73	3.79	

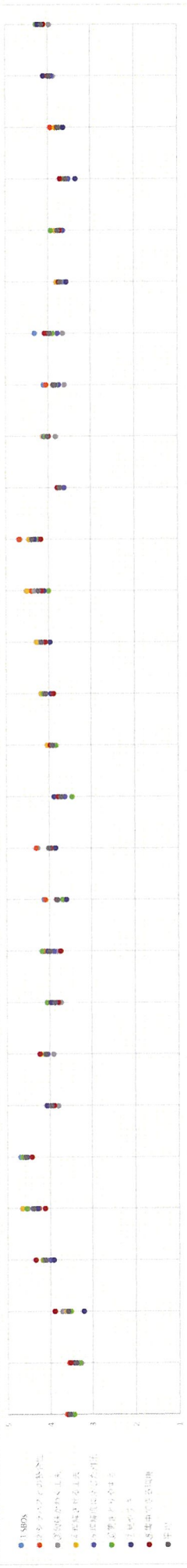


科目名	物理化学III		病態薬物治療学II		病態薬物治療学III		分析化学III		物理系演習		食品衛生学I		免疫学		薬理学I		物理薬理学		生命科学III		環境衛生学II		有機化学V		薬理学III	
	A	B	A	B	A	B	A	B	全	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A
クラス	2.84	3.3	2.91	2.88	2.98	3	2.98	2.84	2.84	2.68	3.03	2.83	3.12	2.82	3.3	3.15	3.42	2.7	3.15	3.1	3.3	2.77	3.24	3.03	3.1	
⑨シラバス事前確認	2.75	3.29	2.73	2.88	2.8	2.75	2.72	2.72	2.73	2.37	2.7	2.73	3.03	2.6	2.95	3.3	2.97	3.35	2.51	2.95	2.93	3	2.63	3.03	2.74	2.93
⑩音習	3.39	3.71	3.36	3.25	3.4	3.31	3.38	3.4	3.17	2.88	3.33	3.23	3.41	3.36	3.41	3.41	3.73	3.75	3.33	3.35	3.79	3.59	3.32	3.41	3.29	3.57
⑪復習	3.27	3.41	3.58	3.27	3.63	3.56	3.42	3.24	3.25	2.68	3.09	3.27	3.18	4.04	3.51	3.44	3.66	3.63	3.3	3.38	3.7	3.57	3.04	3.12	3.52	3.48
平均	3.06	3.43	3.15	3.07	3.20	3.16	3.13	3.05	3.00	2.65	3.04	3.02	3.19	3.28	3.17	3.36	3.38	3.54	2.96	3.21	3.38	3.37	2.94	3.20	3.15	3.27



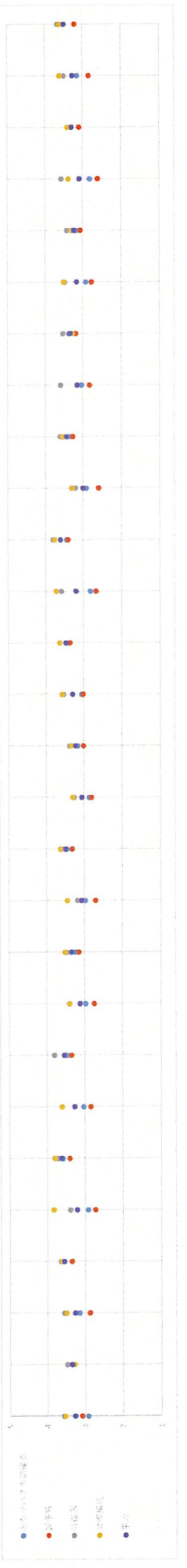
平成30年度 後期 3年生 授業評価 (教員評価)

科目名	構造解析演習		食品衛生学Ⅱ		調剤学		薬物動態学Ⅰ		病態薬物治療学Ⅳ		公衆衛生学		感染症治療学		製剤学Ⅱ		天然物化学		医薬品化学Ⅰ		生命科学Ⅳ		分析化学Ⅳ		有機化学Ⅵ		薬理学Ⅳ	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
①SBOs	3.6	3.42	3.64	4.13	4.32	4.68	3.92	4.07	3.78	4.09	4.12	4.27	3.73	3.92	4.16	4.29	4.35	4.67	3.77	4.06	4.1	4.32	3.65	3.78	3.54	3.81	3.88	4.13
②シラバスとの適合性	3.61	3.56	3.55	4.18	4.26	4.61	3.98	4.07	3.8	4.14	4.09	4.3	3.79	3.89	4.16	4.24	4.4	4.68	3.77	4	4.05	4.04	3.75	3.83	3.59	3.94	3.94	4.17
③興味をわく工夫	3.48	3.28	3.71	4.08	4.53	4.43	3.8	3.91	3.73	3.82	3.67	3.94	3.71	3.92	4.13	4.24	4.33	4.29	3.65	3.82	3.62	3.66	3.71	3.65	3.61	3.72	3.88	3.97
④理解させる工夫	3.57	3.33	3.62	4.18	4.65	4.64	4.03	4.21	3.96	4.03	3.81	3.97	3.73	4.03	4.18	4.29	4.51	4.46	3.72	4.12	3.87	3.94	3.8	3.83	3.7	3.83	4	4.23
⑤理解度に応じた対応	3.55	3.31	3.55	4	4.41	4.57	4.03	4.05	3.89	3.89	3.67	3.85	3.63	3.84	4.07	4.18	4.1	4.25	3.63	4.09	3.75	3.78	3.75	3.66	3.52	3.72	3.92	4.1
⑥聞きとりやすさ	3.45	3.31	3.52	4.16	4.56	4.64	3.98	4.11	4.05	4.17	3.69	3.88	3.46	3.84	4.13	4.11	4	4.29	3.74	4.06	3.83	3.9	3.76	3.93	3.67	3.72	4.1	4.27
⑦聞きやすさ	3.55	3.44	3.21	3.92	4.29	4.54	4.07	4.09	3.96	4.03	3.6	3.85	3.88	3.95	3.95	3.97	4.1	4.33	3.79	4	3.85	4.02	3.57	3.78	3.35	3.64	4.1	4.23
⑧集中できる環境	3.57	3.53	3.9	4.35	4.12	4.43	3.9	4.23	3.8	3.74	3.63	3.97	3.79	3.97	3.89	4.08	4.16	4.18	3.79	4	3.88	4.08	3.75	3.73	3.72	3.78	4	4.1
平均	3.55	3.40	3.59	4.13	4.39	4.57	3.96	4.09	3.87	3.99	3.81	4.00	3.72	3.92	4.08	4.18	4.24	4.39	3.73	4.02	3.87	3.97	3.72	3.77	3.59	3.77	3.88	4.15



平成30年度 後期 3年生 授業評価 (学生自己評価)

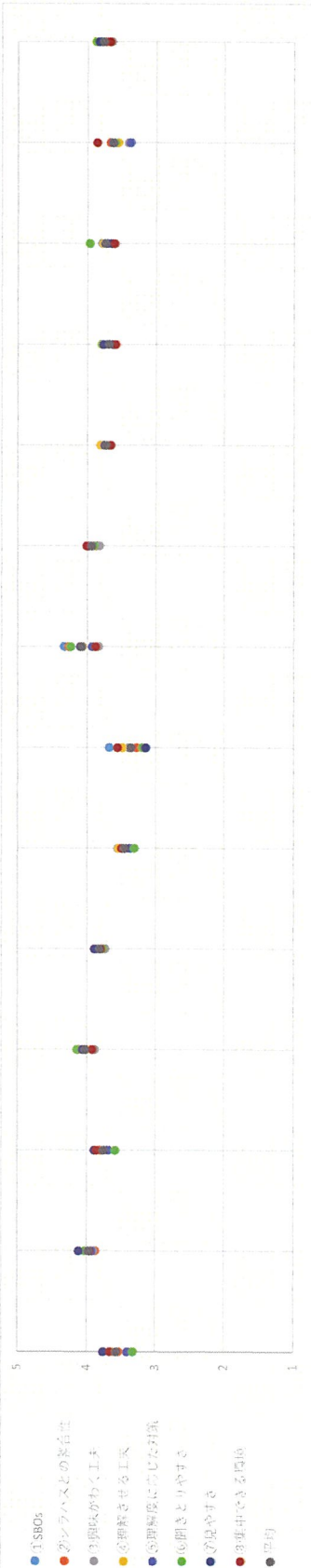
科目名	構造解析演習		食品衛生学Ⅱ		調剤学		薬物動態学Ⅰ		病態薬物治療学Ⅳ		公衆衛生学		感染症治療学		製剤学Ⅱ		天然物化学		医薬品化学Ⅰ		生命科学Ⅳ		分析化学Ⅳ		有機化学Ⅵ		薬理学Ⅳ	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
⑨シラバス事前確認	2.91	3.32	3.14	3.63	2.91	3.57	3.02	3.47	2.96	3.23	2.97	3.45	2.85	3.16	3.04	3.41	2.8	3.43	2.91	3.32	3.02	3.36	2.9	3.17	2.8	3.28	3.13	3.5
⑩予習	3.07	3.32	2.86	3.34	2.71	3.39	2.83	3.34	2.73	3.14	2.69	3.3	2.79	3	3	3.35	2.65	3.39	2.58	3.26	2.81	3.18	2.75	3.05	2.59	3.08	2.82	3.2
⑪復習	3.55	3.47	3.54	3.61	3.38	3.71	3.59	3.8	3.38	3.46	3.17	3.58	3.25	3.37	3.52	3.46	3.79	3.19	3.59	3.58	3.52	3.47	3.41	3.56	3.39	3.49	3.66	3.66
⑫理解度	3.52	3.27	3.48	3.61	3.82	3.79	3.59	3.53	3.39	3.51	3.44	3.61	3.29	3.32	3.56	3.62	3.71	3.75	3.29	3.53	3.15	3.27	3.49	3.28	3.37	3.39	3.6	3.6
平均	3.26	3.35	3.26	3.55	3.21	3.62	3.26	3.54	3.12	3.34	3.07	3.49	3.05	3.21	3.28	3.46	3.18	3.59	2.99	3.43	3.14	3.33	3.15	3.23	3.08	3.29	3.26	3.49





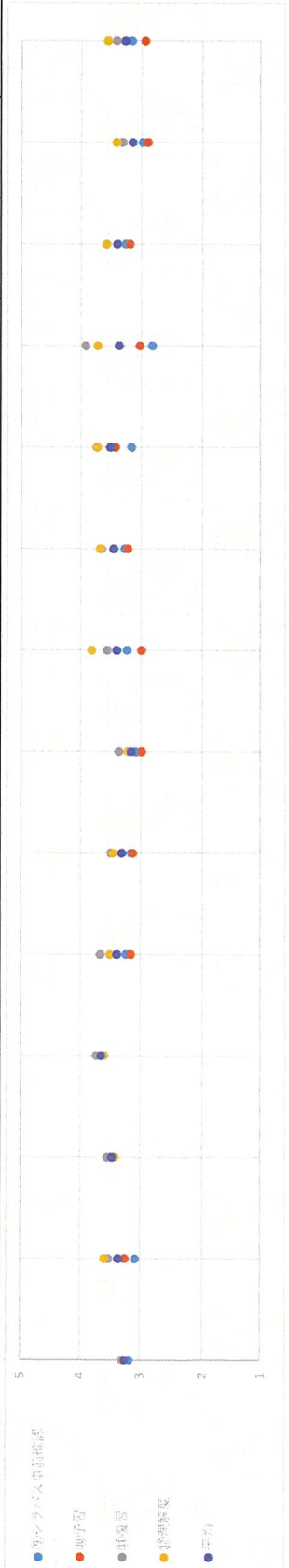
平成30年度 4年生 授業評価 (教員評価)

科目名	臨床薬学英語				薬物態学Ⅱ	がん化学療法学	病態薬物治療学Ⅴ	薬理関係法原制度	医薬品化学Ⅱ		事前学習	薬学演習	漢方治療論	医薬品情報学	臨床薬物動態学
	A	B	全	全											
クラス					全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
①SBOs	3.53	3.98	3.78	4.05	3.74	3.55	3.67	4.32	3.9	3.75	3.7	3.78	3.85	3.72	
②シラバスとの整合性	3.53	3.87	3.79	4.11	3.83	3.48	3.27	4.25	3.87	3.73	3.58	3.71	3.66	3.72	
③興味がわく工夫	3.74	3.9	3.74	3.88	3.73	3.47	3.39	3.83	3.82	3.75	3.61	3.74	3.4	3.64	
④理解させる工夫	3.59	3.98	3.69	4	3.86	3.54	3.48	4.06	4	3.8	3.79	3.77	3.55	3.87	
⑤理解度に応じた対策	3.4	3.92	3.68	4.02	3.86	3.37	3.16	3.92	3.97	3.69	3.63	3.7	3.37	3.78	
⑥聞きとりやすさ	3.32	4.02	3.58	4.14	3.77	3.31	3.19	4.23	3.9	3.7	3.79	3.96	3.6	3.87	
⑦見やすさ	3.75	4.11	3.88	4.05	3.88	3.44	3.14	4.09	3.98	3.74	3.76	3.64	3.63	3.82	
⑧集中できる環境	3.65	3.95	3.85	3.91	3.79	3.49	3.55	3.87	4	3.65	3.59	3.6	3.85	3.66	
平均	3.56	3.97	3.75	4.02	3.81	3.46	3.36	4.07	3.93	3.73	3.68	3.74	3.61	3.76	



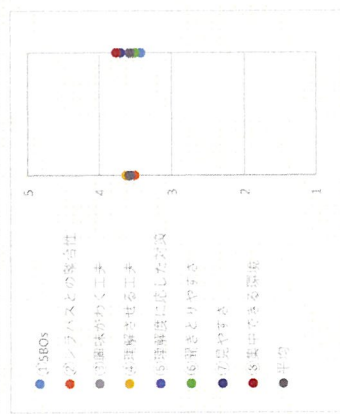
平成30年度 4年生 授業評価 (学生自己評価)

科目名	臨床薬学英語				薬物態学Ⅱ	がん化学療法学	病態薬物治療学Ⅴ	薬理関係法原制度	医薬品化学Ⅱ		事前学習	薬学演習	漢方治療論	医薬品情報学	臨床薬物動態学
	A	B	全	全											
クラス					全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
⑨シラバス事前確認	3.18	3.08	3.44	3.63	3.24	3.16	3.08	3.23	3.27	3.16	2.82	3.26	2.98	3.16	
⑩予習	3.26	3.25	3.47	3.63	3.16	3.13	2.98	2.98	3.22	3.42	3.02	3.19	2.89	2.93	
⑪復習	3.29	3.52	3.54	3.73	3.66	3.49	3.36	3.55	3.65	3.73	3.92	3.57	3.31	3.41	
⑫理解度	3.27	3.59	3.42	3.6	3.5	3.46	3.21	3.81	3.67	3.72	3.72	3.57	3.41	3.55	
平均	3.25	3.36	3.47	3.65	3.39	3.31	3.16	3.39	3.45	3.51	3.37	3.40	3.15	3.26	

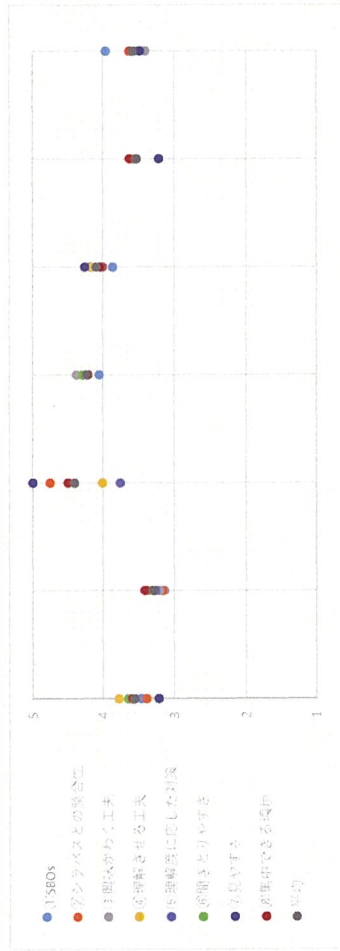


平成30年度 5,6年生 授業評価 (教員評価)

科目名	実務実習直前学習	実務実習ポスト教習
クラス	全	全
①SBOs	3.5	3.42
②シラバスとの整合性	3.5	3.52
③興味がわく工夫	3.56	3.5
④理解させる工夫	3.62	3.53
⑤理解度に応じた対策	3.56	3.58
⑥聞きとりやすさ	3.59	3.5
⑦見やすさ	3.57	3.7
⑧集中できる環境	3.58	3.76
平均	3.56	3.56

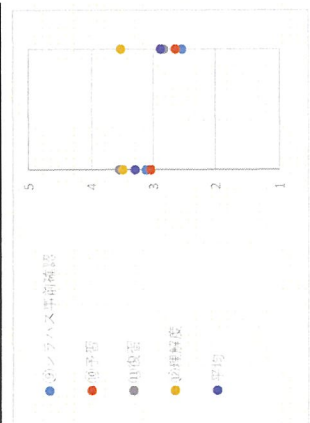


科目名	医薬品開発論	薬学総合演習	ゲノム創薬論	ターミナルケア論	救急医療概論	地域薬局論	処方解析学
クラス	全	全	全	全	全	全	全
①SBOs	3.46	3.14	4.75	4.05	3.86	3.52	3.96
②シラバスとの整合性	3.38	3.16	4.75	4.21	4	3.55	3.62
③興味がわく工夫	3.77	3.21	4	4.38	4.19	3.58	3.41
④理解させる工夫	3.77	3.36	4	4.27	4.15	3.57	3.48
⑤理解度に応じた対策	3.57	3.27	3.75	4.23	4.02	3.57	3.55
⑥聞きとりやすさ	3.64	3.4	4.5	4.29	4.26	3.59	3.56
⑦見やすさ	3.22	3.4	5	4.23	4.26	3.22	3.48
⑧集中できる環境	3.58	3.41	4.5	4.22	4.04	3.62	3.59
平均	3.55	3.29	4.41	4.24	4.10	3.53	3.58

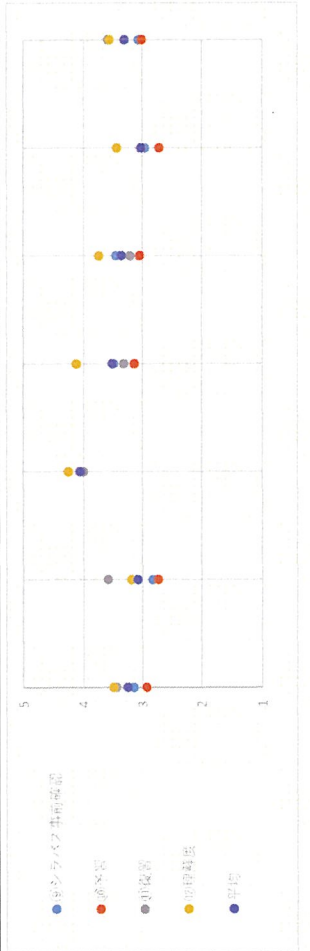


平成30年度 5,6年生 授業評価 (学生自己評価)

科目名	実務実習直前学習	実務実習ポスト教習
クラス	全	全
⑨シラバス事前確認	3.12	2.54
⑩予習	3.04	2.64
⑪復習	3.55	2.83
⑫理解度	3.49	3.53
平均	3.30	2.89

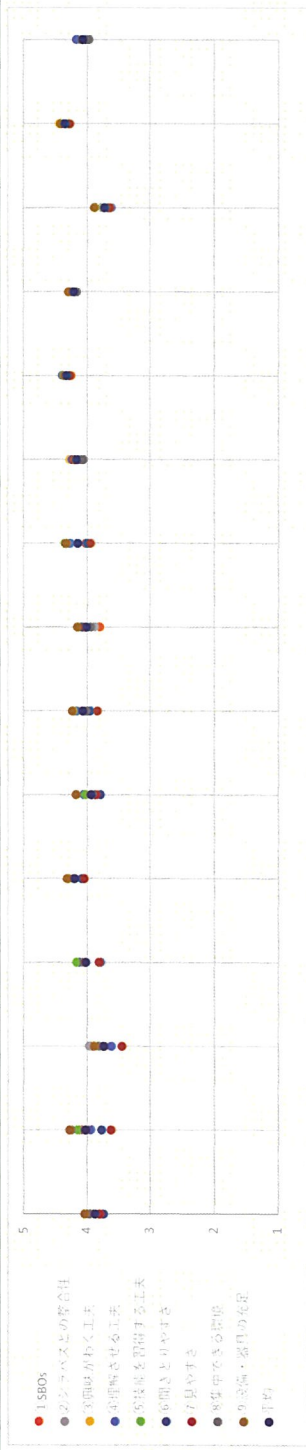


科目名	医薬品開発論	薬学総合演習	ゲノム創薬論	ターミナルケア論	救急医療概論	地域薬局論	処方解析学
クラス	全	全	全	全	全	全	全
⑨シラバス事前確認	3.15	2.83	4	3.49	3.45	2.96	3.07
⑩予習	2.93	2.73	4	3.14	3.05	2.71	3.01
⑪復習	3.44	3.59	4	3.32	3.21	3.01	3.59
⑫理解度	3.49	3.19	4.25	4.12	3.74	3.43	3.56
平均	3.25	3.09	4.06	3.52	3.36	3.03	3.31



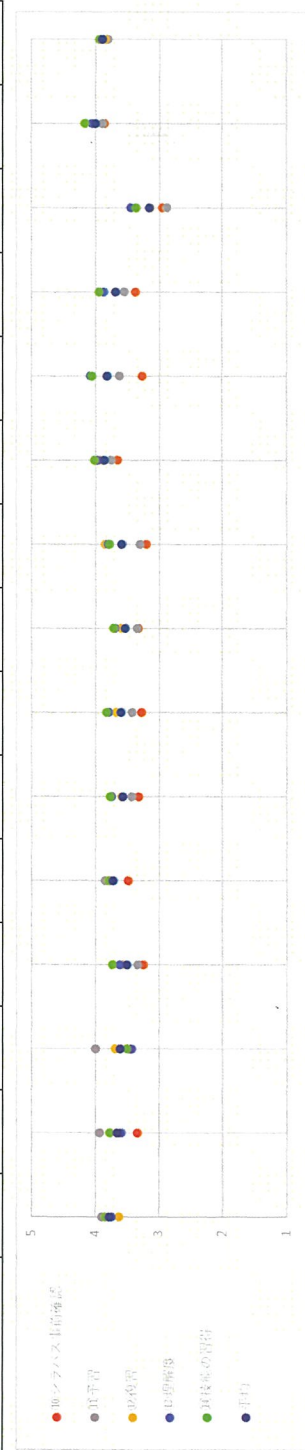
平成30年度 2～4年生 実習評価 (教員評価)

科目	基礎実習		化学系実習		衛生薬学実習		生物系実習				薬理学実習			
	全	漢+薬	1,2組		3,4組		1,2組		3,4組		前	後		
			1,2組	3,4組	1,2組	3,4組	1,2組	3,4組						
クラス	3.94	4.09	4.09	4.19	3.86	3.98	3.79	4.02	4.08	4.25	4.29	3.88	4.4	4.17
①SBOs	3.87	4.12	4.09	4.08	3.82	4.03	3.88	3.96	4.14	4.27	4.17	3.76	4.35	4.14
②シラバスとの整合性	3.83	3.98	4.03	4.29	3.89	4.15	4	4.27	4.27	4.37	4.19	3.61	4.44	4.03
③興味をわく工夫	3.78	3.94	4.12	4.29	4.05	4.17	4.06	4.27	4.24	4.39	4.21	3.61	4.33	4.17
④理解させる工夫	3.89	4.15	4.17	4.29	4.02	4.22	4.13	4.35	4.19	4.37	4.26	3.73	4.29	4.08
⑤技能を習得する工夫	3.73	3.76	3.78	4.08	3.78	3.95	4.08	4	4.14	4.29	4.17	3.65	4.27	4.03
⑥聞きとりやすさ	3.79	3.61	3.8	4.04	3.86	3.83	4.02	3.94	4.21	4.27	4.19	3.63	4.27	3.97
⑦見やすさ	3.97	4.25	4.05	4.21	3.91	4.02	3.94	4.15	4.06	4.35	4.17	3.71	4.4	3.97
⑧集中できる環境	4.03	4.27	4.02	4.31	4.17	4.23	4.15	4.33	4.19	4.35	4.29	3.88	4.42	4.08
⑨設備・器具の充足	3.87	4.02	4.02	4.20	3.93	4.06	4.01	4.14	4.17	4.32	4.22	3.72	4.35	4.07
平均														



平成30年度 2～4年生 実習評価 (学生自己評価)

科目	基礎実習		化学系実習		衛生薬学実習		生物系実習				薬理学実習		
	全	漢+薬	1,2組		3,4組		1,2組		3,4組		前	後	
			1,2組	3,4組	1,2組	3,4組	1,2組	3,4組					
クラス	3.78	3.34	3.25	3.49	3.32	3.28	3.33	3.21	3.66	3.38	2.95	3.87	3.91
⑩シラバス事前確認	3.9	3.94	3.34	3.85	3.43	3.43	3.35	3.31	3.76	3.56	2.88	3.9	3.81
⑪予習	3.63	3.65	3.58	3.73	3.59	3.68	3.6	3.85	3.92	3.69	3.15	4.02	3.86
⑫復習	3.75	3.6	3.62	3.77	3.75	3.8	3.7	3.81	3.97	3.88	3.45	4.06	3.94
⑬理解度	3.84	3.78	3.74	3.79	3.77	3.83	3.72	3.79	4.02	3.95	3.37	4.17	3.94
⑭技能の習得	3.78	3.66	3.51	3.73	3.57	3.60	3.54	3.59	3.87	3.69	3.16	4.00	3.89
平均													



### 3. 学生コメント総括

平成 30 年度 学生による授業および実習評価アンケートのコメント欄に記載された代表的な内容を以下に記す。

#### 【授業】

<良かった点>	<改善してほしい点>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞きとりやすい声、大きな字</li> <li>・グループワークの導入</li> <li>・スライド中の写真や絵の工夫、分子模型を使った説明</li> <li>・プリントの配布がある</li> <li>・小まめな確認テスト</li> <li>・宿題プリント</li> <li>・補習をしてくれる</li> <li>・前回の復習がある</li> <li>・例題、演習が多い</li> <li>・学生の理解度に合わせた講義の進め方</li> <li>・理論的かつ丁寧な説明によって理解が深まる</li> <li>・リフレクションシートやシャトルカードの導入（双方向性）</li> <li>・熱意を感じた</li> <li>・先生が明るく楽しそうに授業をする</li> <li>・時事ネタ、例え話など授業内容とつながる雑談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き取りにくい声 (マイクの音量、性能の問題を含む)</li> <li>・スライドがもらえない</li> <li>・スライドのアップ時期を早く</li> <li>・スライドの作り方（配置、配色、フォントサイズ）</li> <li>・講義ペース (早すぎる、或いは遅すぎる)</li> <li>・板書方法 (文字の読みづらさ、位置、チョークの色、消すタイミングなど)</li> <li>・重要な部分とそうでない部分のメリハリがはっきりしない</li> <li>・間違いが多い (板書、資料など)</li> <li>・答えがもらえない (レポート、宿題など)</li> <li>・教科書を使う頻度が低い</li> <li>・教員間の情報共有</li> <li>・グループワークの際は、能力差を考慮したグループ分けと適正な評価方法で実施</li> <li>・講義中にアンケートを取ると講義の邪魔になる。</li> </ul>

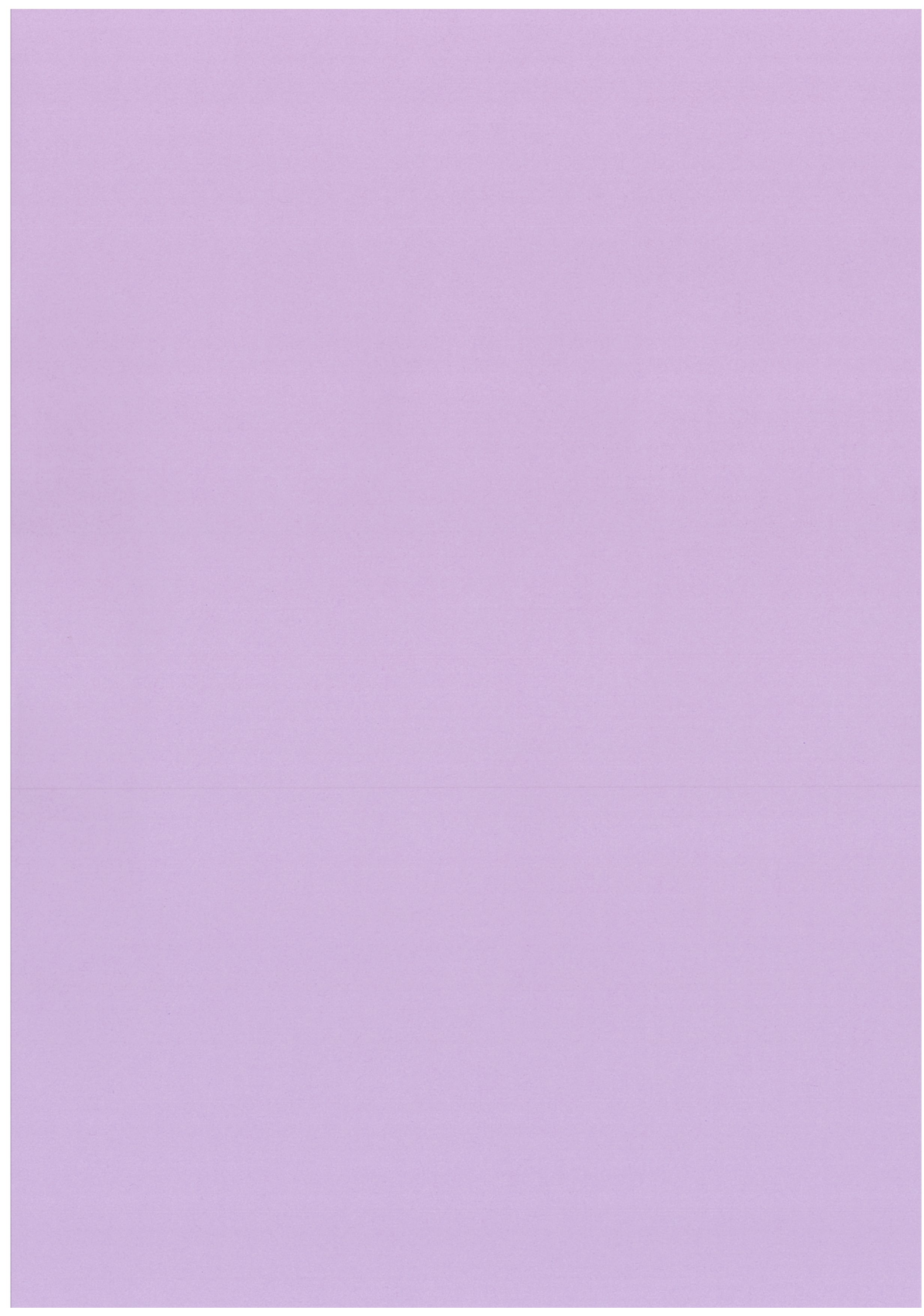
### 【実習】

<良かった点>	<改善してほしい点>
<ul style="list-style-type: none"><li>・質問しやすい環境（教員数）</li><li>・事前準備が整っている</li><li>・デモンストレーションがある</li><li>・授業で習ったことを体感できる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・教員によって説明が違う</li><li>・説明が難しい</li><li>・グループ当たりの人数が多い（怠ける者が出る）</li><li>・器具の破損、不足</li><li>・実習内容と合っていないレポート</li></ul>

### 【総括】

- ・小まめなテストの実施は学生自身が理解度を把握しやすい
- ・適量の宿題は自己学習に取り組みやすい
- ・関連科目の教員間で情報を共有し、重複や不足、相違点をなくす





# 教員相互授業参観報告

平成 30 年度





## 教員相互授業参観 報告

本学では、教員の講義技能を高めるとともに、学生の受講態度を客観視するために、第三者の教員による授業参観を実施している。参観者には授業と授業中の学生の態度に関する報告書の提出を依頼し、それを教員にフィードバックすることとしている。教員は報告書に目を通すことで、自らの授業を客観的に評価し、今後の授業の取り組みやあり方に活かすことができる。また、参観者は、他の教員の講義の方法や技能を目の当たりにすることで、大いに刺激を受ける。授業を行う教員と参観者である教員の双方にとって発展的効果が期待される。

今年度は、Ⅰ・Ⅱ期とⅢ・Ⅳ期の2つの時期に授業参観期間を設け、各教員がいずれかの期間に一度、実習と演習以外の1年から4年の任意の教科を参観するものとした。詳細は、教員に送信された「実施要領」（配布物1を参照）に記載されている。

Ⅰ・Ⅱ期とⅢ・Ⅳ期に、それぞれ21人と27人の教員が授業参観した。以下に、教員から提出された報告書をまとめる（報告書の書式は配布物2を参照）。

授業は、スライドを使用するタイプとしないタイプの2つの形態に大別される。スライドを使用する授業では、スライドのコピーを予め学生に配布し、予復習に活用させている場合が多い。また、配布資料には講義内容の書き込みができるよう十分な余白を設けるなどの工夫が施されている。スライドを使用しない場合、黒板を使って学生に板書させるのだが、文字の大きさ等、概ね見やすいとの感想が得られている。ただし、蛍光灯の反射で教室の一部では、見にくくなっているとの声もあった。

授業の開始時は概して、学生の学習態度が十分に整っていない。学生に学習態度を喚起するように、教員は各自授業の導入部を工夫している。小テストや前回のまとめなどの復習に充てる教員のほか、今回の内容のアウトラインやSBO、到達目標など、当日の授業内容を予め明示している教員もいる。

授業中も学生の興味を保つために、講義内容の確認用の演習問題を与えたり、国家試験に結び付けて解説している教員がいる。他の教科・科目に関連させた複合的な解説により、学生に

理解を深めさせているケースもある。中には、今回の授業が薬剤師として将来働いた際にどのように活かされるのかについて説明している教員もいる。また、全ての教員はゆっくりとかつ明瞭に話すように努力されている。穏やかな調子で話される教員の授業は、学生もリラックスして受講できるようである。

授業の最後に工夫している教員も見受けられる。授業内容の理解と記憶の定着を促すために、本日の重要ポイントを再度明示するケースがそれに該当する。また、リフレクションシートを配布し、学生に疑問点や感想などを記入させ、次回の授業で回答・フィードバックする教員もいた。

以上、各教員が学生に授業に関心をもって集中して臨んでもらえるように相当苦心している様子がアンケートから伺える。参観者のコメントは総じて好意的であり、参観した授業からヒントを得るなど大いに刺激を受けている。来年度以降も教員相互授業参観は継続する価値があるものと認められる

## 平成30年度「教員相互授業参観」実施要領

FD委員会

## 1. 目的

教員の講義力向上の一助とするとともに、受講している学生の受講態度等を観察し、教員が授業の現状理解を深めることを目的とする。

## 2. 要領

本年度は、下記の要領で教員相互形式の授業参観を実施する。学生の授業評価の高い教員の教科科目や自身の専門領域を超えた講義など、幅広く自由に選択できる。

○実施期間：以下の第1回目と第2回目の期間中に、年1回は参観すること。

第1回目：5月1日～6月30日

第2回目：10月1日～12月7日

○対象科目：1年生、2年生、3年生、4年生の講義授業科目

(実習科目や演習科目は除外)

参観対象科目（1～4年次の科目）から、参観したい科目を自由に選ぶこと。

○手順

手順1 参観希望者は、前もってEメールなどで講義担当者の許諾を得ておく。

手順2 30分以上参観する。

手順3 参観終了後、感想用紙に感想を記入し、電子ファイルをメールアドレス

(安川) : k-yasukawa@daiichi-cps.ac.jp 宛てに添付メールで提出する。

○感想用紙：dysv10 → public\_new → 委員会 → FD委員会 → 教員相互授業参観  
→ 平成30年度 → 「H30授業参観感想用紙.docx」を使用すること。

提出は、第1回目は7月6日、第2回目は12月11日までとする。

## 3. 附記

- ・ 提出された感想用紙はFD委員会（委員長）が保管し、コピーを講義担当教員に渡すものとする。また翌年度の授業参観実施のための参考資料とする。
- ・ 第1回目と第2回目の感想提出教員のリスト等を、各回提出期限後に行われる教員連絡会議にて連絡する。

## 平成30年度「相互授業参観」感想用紙

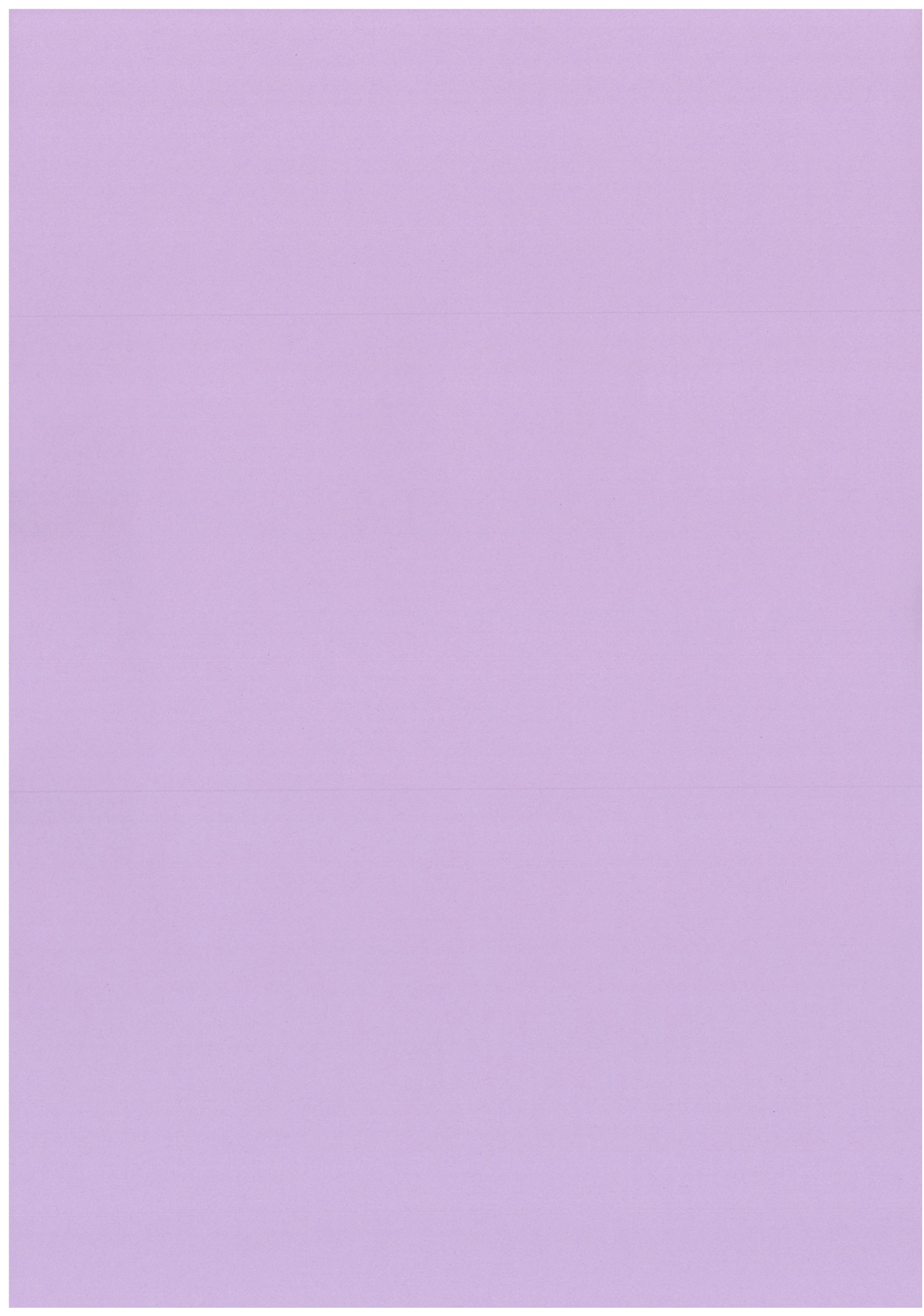
参観日時	月 日 時限	参観者名	
学年・期・クラス 講義名	年・ 期・ クラス	講義担当者	

(1) 感想（良かった点・参考になったこと等）のご記入をお願いします。

--

(2) 参観者から見た学生の様子

--



# 教員による授業の自己評価報告

平成 30 年度





## 平成 30 年度 教員による授業の自己評価について

教員の教育力向上を目的として行われてきた「学生による授業アンケート」「学生アンケートに対する教員コメント」の取り組みと合わせて、さらなる教員の教育力改善のため、専任教員を対象として「教員自身による授業の自己評価」を平成 26 年度より開始した。

平成 26 年度は「教員による自己評価」及び「次年度への計画」が記載項目として挙げられていたが、平成 27 年度は、「学生による授業評価に対するコメント」を追加した。これにより、授業に対する PDCA サイクル(授業(D)、自己評価及び学生評価(C)、次年度への計画(A/P))を 1 枚のシートで確認することができるようになった。平成 28 年度からは、自己評価の項目を①授業に対する自己評価、②学生による授業評価に対するコメント、③昨年の授業計画に対する自己評価、④次年度へ向けての改善計画の 4 項目とし、「③昨年の授業改善計画に対する自己評価」を追加した。これにより、昨年の自己評価による改善計画(P)、授業の実施(D)、授業の自己評価(C)、昨年の改善計画の自己評価(C)、次年度への改善(A/P)と、教員自身の授業に対する PDCA サイクルがさらに充実した。学生評価を加味することでさらに自己点検の際、学生の意見に対する振り返り効果も得られるものである。

教員による授業の自己評価の実施から 5 年目となる本年度は、各教員に対して自身の授業改善に対するアンケートを実施し、自己評価の有効性についての検証を実施した。アンケートの集計結果は、前年度から継続して講義を担当している教員の全員が今年度授業の改善に努め、またその結果授業を改善することができたとの回答であった。

「教員による授業の自己評価」は、前期・後期終了後、学内サーバー(¥¥dysv10)の FD 委員会内フォルダーに教員個人が提出する方法で実施された。平成 30 年度は前期 50 件、後期 37 件について自己評価が提出され、非常勤講師、オムニバス形式の講義を除く全ての講義について自己評価が行われた。提出された教員による自己評価は、印刷物として図書館で、学生・教職員を問わず、誰でも自由に閲覧できるよう設置している。

平成 30 年度 教員による授業の自己評価

担当者名		平成 30 年度	(前・後) 期 (1・2・3・4) Q
担当科目・ 授業回数	( 回)	学年	( ) 年

1. 教員による授業評価

- (1) 授業計画と講義内容について説明しましたか。 はい いいえ
- (2) 学生の理解度を深めるための講義の工夫について、自己評価（該当箇所に○）を行って下さい。

	改善が必要 ←————→ 改善不要						該当せず
	0	1	2	3	4	5	
① 配付資料のわかりやすさ							
② 板書の読みやすさ、わかりやすさ							
③ 講義で使用したスライドのわかりやすさ							
④ 重要な事項の強調方法の適切さ							
⑤ 学生の理解度に応じた講義スピードの調節							
⑥ 試験内容や試験方法に対する工夫							

2. 学生による授業評価に対するコメント

3. 昨年の改善計画に対する自己評価

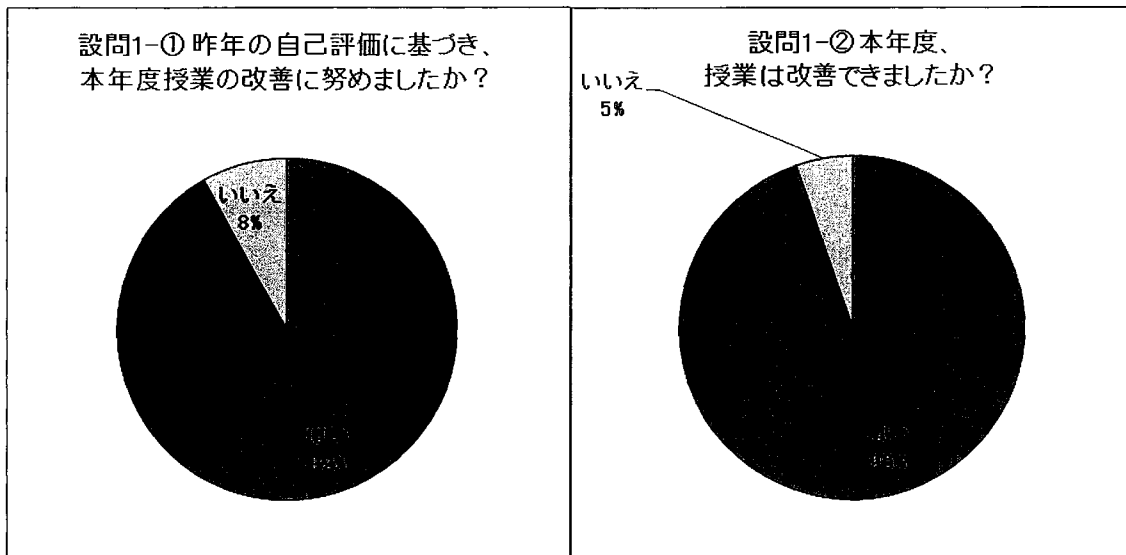
4. 次年度へ向けての改善計画



## 「教員による授業の自己評価」に関するアンケート

「教員による授業の自己評価」が適切に実施され授業改善に対して有効であるかを検証するため、また次年度以降の自己評価シートの改善に向けたアンケートを実施した(回答数 37)。

自己評価の有効性に関する 2 つの設問については以下のような結果となった。1, 2 のいずれも「いいえ」と回答した教員は講義開講初年度が理由であり、昨年度から講義を行っている教員については全員が今年度改善に努め、その結果改善できたとの回答であった。



「教員による授業の自己評価」シートの改善点について自由記述コメントで次頁のような意見が出された。これらの意見を参考として、次年度の自己評価シートの形式について検討する。

## 自由記述 コメント

ひと通り授業を終えた後、自分が実施した内容や手順等を見つめ直す機会として、とても役立つ内容になっていると思われる。ただし、A組とB組が成績で分けられている場合では、同じシラバスでありながら成績下位クラスでは、上位クラスに説明したものから少し内容を削ってゆっくり説明するといった具合に、同じ内容で評価してよいかを迷うケースがあるため、その点を考慮したものとなれば、よりわかり易い自己評価になるとともに、その自己評価書を他者が見てもよりわかり易くなると思われる。

特にありません。一定の内容で5年間位は続けて行かなければ的確な検証が出来ないと思います。

学生アンケート結果を記載する欄を設けても良いのではないのでしょうか。

適切な項目が揃っており、特にありません。

成績クラス分けがある場合、クラス別の評価や改善計画が必要ではないのでしょうか。

教員相互の授業参観による授業に参加された教員からの評価に対するコメントも設けてみてはいかがでしょうか。

“⑤ 学生の理解度に応じた講義スピードの調節”について、補習の利用についても自己評価欄を設けてはいかがでしょうか？

“⑥ 試験内容や試験方法に対する工夫”について、マーク方式や記述式問題の有用性についても自己評価欄を設けてはいかがでしょうか？





# FD 講習会報告

平成 30 年度





## 第1回FD講習会 報告書

日時：平成30年9月4日 13:00～14:20

場所：東大教室

演者：芦刈 綾香 先生（臨床心理士・本学カウンセラー）

演題：「現代大学生の心理 ―不本意な退学を予防するためにできる学生支援―」

参加者： 教員 38名 事務 8名

### FD講習会アンケート結果

（回収 34名）

1. この講習会はあなたにとって役立ちましたか？

- ① 非常に役立った 12      ② 役立った 18  
③ あまり役立たなかった 3      ④ 全く役立たなかった 0      無回答 1

2. 問1で③,④を選択された場合、理由をお聞かせください。

- ・各教員が具体的にどのような対応をしたらよいかという具体的事例を知りたかった。

3. 講演時間は適切でしたか？

- ① 長すぎる 0      ② 適切 32      ③ 短すぎる 0      無回答 2

（①,③を選択された方は、望ましい時間を書いてください： 時間）

4. 今後、希望する講演などがありましたら、ご記入ください。

- ・実際に本学学生から相談が多い事例とその対策（2名）
- ・本学における心理的介入による学生支援の成功事例
- ・相談員研修
- ・カウンセリング入門
- ・学生の学習に対するモチベーション向上方法
- ・講義についていけない学生に対する効果的な指導方法
- ・ループリック
- ・ポートフォリオ：鈴木敏恵先生
- ・性の多様化とマイノリティ

5. その他FD委員会に対する要望等がありましたらご記入ください。

特になし 2

## 現代大学生の心理 —不本意な退学を予防するためにできる学 生支援—

第一薬科大学 学生相談室  
芦刈 綾香(臨床心理士)  
2018年9月4日(火)

## 研修の目的

- 大学における学生支援の在りかたが変遷
- 中途退学に関連する学生支援が求められている(大学経営, 社会的意義)
- とりわけ“不本意な退学”の予防が重要



- 「青年期心性の変化」「退学を迷う学生の心のありかた」「退学を迷う学生に関わる視点」について概説

## 第3回薬学教育学会より

大谷大学荒瀬克己先生

「教育改革としての高大接続改革」

- ・大きな社会変動と将来の予測できなさのなかで、知識の量だけでなく、混とんとした状況の中に問題を発見し、答えを生み出し、新たな価値を想像する資質や能力が求められる社会・世界と関わり、よりよい人生や人間関係を自主的に形成していく＝「学びに向かう力、人間性の涵養」(2016年の高大接続システム改革会議の最終報告)

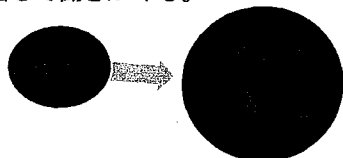
## 第3回薬学教育学会より

「よりよい人生」という言葉

- ・薬学部の専門的教育/カリキュラム/よりよい薬剤師/各種の到達目標
  - ・価値の多様化/薬剤師, 薬学の専門家として社会でよりよく生きていくことは/学生が個人として模索
- ➡ 答えを示すのではなく模索を支える

## どのように経験するか

体験過程療法: カウンセリングのなかでその人の体験内容(困っている内容)だけでなく、体験様式(困り方、困っていることへの向き合い方)に着目して働きかける。



## 研修の目的

- 大学における学生支援の在りかたが変遷
- 中途退学に関連する学生支援が求められている(大学経営, 社会的意義)
- とりわけ“不本意な退学”の予防が重要



- 「青年期心性の変化」「退学を迷う学生の心のありかた」「退学を迷う学生に関わる視点」について概説

## 背景

### 大学のおかれた状況

- 少子高齢化/グローバル化
- 全入時代/情報公開義務化
- 学修の質保証/教育機能の充実  
(「大学改革について」:文部科学省 2018年5月)



### 学生支援の役割変化

- 位置づけ
- 役割内容

## 学生支援の3階層モデル (日本学生支援機構, 2007)

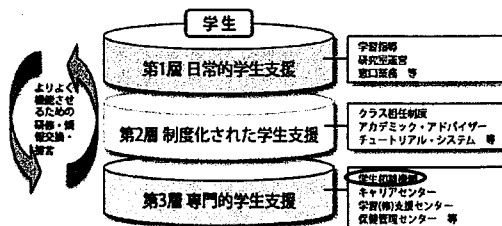


図1 学生支援の3階層モデル (日本学生支援機構, 2007)

## 背景

### 学生支援の役割変化

- 役割内容
  - ✓ グローバル化に対応可能な支援
    - ・ 「留学生30万人計画」(2008年文部科学省)
    - ・ 「障害者差別解消法」(2013年)に基づいた修学支援
  - ✓ 対応のむずかしい事例の支援
    - ・ 自傷/他害
    - ・ 性別違和
    - ・ 発達障害/高次脳機能障害 修学支援
    - ・ 保護者対応
    - ・ 不登校支援/アウトリーチ



- ✓ 相談件数増加(2000年代～)

## 背景

- Q.
- ✓ 学生相談に関する、今後も課題として特に必要性が高い事項はなにか？
- A.
- ✓ 悩みを抱えていながら相談にこない学生への対応 (86.6%)
  - ✓ 精神的危機の状況にある学生への対応 (69.9%)
  - ✓ 相談員と教職員との連携・協働 (64.9%)

(大学における学生支援の取り組み状況に関する調査, 日本学生支援機構 平成27年度)

## 背景

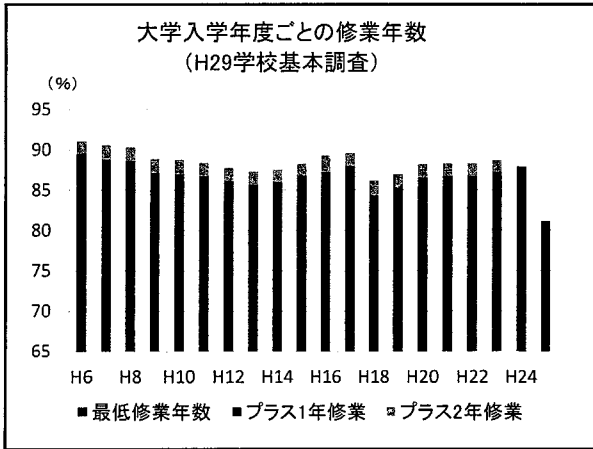
### 学生支援の役割変化

- 位置づけ
  - ✓ 大学認証評価の評価基準のなかに学生支援・学生サービス(独立行政法人大学改革支援・学位授与機構, 2011)
  - ✓ 大学機能の基盤形成に資するという補助的位置づけ  
→ 組織的かつ戦略的な教育的関与として明確に位置づけていく必要性(川島, 2014)

## 背景

### 中途退学に関連した学生の状況

- 統計
  - ✓ 全国
    - 1年間に7万9,311人(平成26年文部科学省/全学生数が299万1,573人/学生の2.65%が1年間に中退)
  - ✓ 本学
    - H27年度69名(全在籍者1173名, 休学者29名)
    - H28年度61名(全在籍者1108名, 休学者49名)
    - H29年度48名(全在籍者1075名, 休学者17名)



### 背景

#### 中途退学に関連した学生の状況

□ 退学理由と関連要因

- ✓ 文部科学省
  - ①経済的理由(20.4%)②転学(15.4%)③学業不振(14.5%)  
(「学生の中途退学や休学等の状況について」文部科学省 平成26年9月)
- ✓ 厚生労働省
  - ①学業不振/意欲喪失(49.5%)②家庭・経済的理由(19.3%)  
③進路変更(15.1%)④大学生生活不適応(10.0%)  
(「大学等中退者の就労と意識に関する研究」  
独立行政法人 労働政策研究・研修機構 平成27年5月)

### 背景

#### 中途退学に関連した学生の状況

□ 退学理由と関連要因

- ✓ 学業転帰
  - ・ 閉じこもり(ひきこもり)/休学/精神健康上の重症度が学業転帰に最も大きな影響(石井, 2017)
  - ・ 172名の不登校者のうち大学入学前までの不登校経験者数45名(26%),いじめ被害経験者27名(16%)(西川, 2010)

### 背景

#### 中途退学に関連した学生の状況

□ 大学経営上の課題

- ・ 学費収入源
- ・ “負の広告塔”

↓

- ・ 再入学制度等の整備

### 背景

#### 中途退学に関連した学生の状況

□ 退学理由と関連要因

- ✓ 予後
  - ・ 大学中退者は卒業者に比べ、修業するまでの期間が長い
  - ・ 中退者(20代)の約6割は一度も正社員経験がなく、無業や失業のリスク高
  - ・ 中退者は卒業者よりも職場での孤立や退職、就職活動の失敗などを体験

(「大学等中退者の就労と意識に関する研究」労働政策研究・研修機構 平成27年)

### 背景

#### 中途退学に関連した学生の状況

□ “不本意さ”≒“これでいい”という体験の得られなさ

□ 自尊心・自己効力感の低下

- ✓ 喪失経験/所属に関連した自己の揺らぎ

□ 自尊心・自己効力感を挽回するため無理の多い選択

□ 自尊心・自己効力感の低下への直面を避ける選択

↓

□ 退学理由(体験内容)を問わず、退学を経験することについて自らが僅かであっても納得できているか(体験過程)

## 背景

### 中途退学に関連した学生の状況

- 個別性
  - ✓ 退学経験の把握しづらさ
  - ✓ 中退“ダメ絶対”/セルフスティグマ化



- ✓ 個のなかでの意味づけ

## 背景

### 中途退学に関連した社会的状況

- 社会の疲弊/持続不可能型社会
- 大学の意義
  - ✓ 知の再生産
  - ✓ “ジャンボジェット機の燃料と助走”(大内,2017)



- 社会の循環のなかでみたときに学生の“不本意な退学”を防ぐことは非常に大切

## 研修の目的

- 大学における学生支援の在りかたが変遷
- 中途退学に関連する学生支援が求められている(大学経営, 社会的意義)
- とりわけ“不本意な退学”の予防が重要



- 「青年期心性の変化」「退学を迷う学生の心のありかた」「退学を迷う学生に関わる視点」について概説

## 青年期心性の変化

- モラトリアムの長期化
  - ✓ 心理社会的発達の立ちどまり(E.H.Erikson)
  - ✓ 競争からの降りられなさ/コントロール幻想(L.Saltzman)
- コミュニケーション偏重(斎藤環,2007)
  - ✓ 孤立を恐れる/スクールカースト遷延
  - ✓ 場当たりの人間関係

大学内対人ストレスの増大



## 心理社会的発達段階 (E. H. Erikson)

心理社会的発達段階 (E. H. Erikson)

段階	テーマ	到達
乳幼児期	基本的信頼感 v s 不信任	希望
幼児期前期	自律性 v s 恥・羞恥心	意思
幼児期後期	積極性(自発性) v s 罪悪感	目的
児童学童期	勤勉性 v s 劣等感	有能感
青年期	同一性(アイデンティティ) v s 同一性の拡散	忠誠心
成人期	親密性 v s 孤立	愛
壮年期	世代(生殖)性 v s 停滞性	世話
老年期	自己統合(統合性) v s 絶望	賢さ

## 青年期心性の変化

- 悩み体験の変化(鍋田,2009;高石,2009)
  - ✓ 眩けるけど悩めない
  - ✓ 悩みの身体化
- 反社会から非社会へ(斎藤環,2007)
  - ✓ “アパシー”から“ひきこもり”へ
  - ✓ 薄く広がる幻滅論(高い幸福度と将来への不安の併存)→幸福さは場当たりの流動的な対人関係に由来

## 青年期心性の変化

- 相談しない/相談できない
- 6791人の大学生の回答  
(私立大学学生生活白書,2015)
- ✓ 自分のことを何でも話せる友人がいない  
(15.9%)
- ✓ 「誰とも相談しない」(12.6%)

## 青年期心性の変化

- 相談しない/相談できない
- ✓ 専門的援助を受けることに肯定的な学生ほど援助要請行動に積極的。援助要請行動を抑制する要因にセルフスティグマ (Li, Dorstyn, & Denson,2014)
- ➡ “健康な人ほど上手に相談”

## 青年期心性の変化

- 相談しない/相談できない
- ✓ 「悩みを抱えているが相談にこない」には様々なパターンが考えられる
- 1. 相談したいけど来ない  
→ アクセスやプライバシー配慮の課題
- 2. そもそも本人が相談したいと思っていない  
→ 他者からの提案あるいは心理教育的ワーク
- 3. 大学内分業がうまくいっている可能性  
← 学生支援の3層モデル内のどこかで支えられている
- 4. 他者に対する絶大な不信感  
⇔ “相談したところで”という諦め体験の蓄積

## 退学を迷う学生の心のありかた

- 両価性
- ✓ “やめたい”,そして“やめたくない”
- 進行性
- ✓ 退学を言葉にする前からプロセスは始まっている
- ✓ 学生相談における退学につながる相談トピックは本意入学/不登校/留年/保護者との不和/経済的問題/進路変更(山中,2018)

## 退学を迷う学生の心のありかた

- 心身の不調
- ✓ 日常生活リズムの崩れ(睡眠/食事/SNS・ゲーム依存傾向)
- ✓ 二極化した思考や行動(考えの急変/自己理解や行動選択や目標の極端さ)
- ✓ 時間軸の無さ(焦燥感/視野の狭まり/集中できなさ)
- ✓ 精神疾患の可能性
- 社会関係の不調
- ✓ 人間関係念慮(家族,教職員,友人知人ら)
- ✓ コミュニケーションの質の低下
- もともとの発達特性や心の偏りが顕在化

## 退学を迷う学生に関わる視点

- ゲートキーパー役割
- ✓ 申し出そのものや相談行為を支持
- ✓ “きっかけ”についてたずねてみる
- ✓ 現状把握(本人の冷静な判断/退学後の見通し/保護者の納得/担任への相談有無など)

## 退学を迷う学生に関わる視点

- 意思決定を支える
- ✓ 学生が思いや考えを表現できる場を設定
- ✓ 必ずしも一度の面談で決定しない
- ✓ ダブル・バインド・メッセージを避ける
- ✓ 幅広く情報を伝える
- ✓ Valued Based Practice: 「支援者にとっての正しい選択」が「対象者にとって正しい選択」とはかぎらない



学生自身が当座“これでいい”と思えること

## 退学を迷う学生に関わる視点

- 学生の実行を支える
- ✓ “辞めることを支える”(本学に在籍してよかつたと感じられること/学外社会資源の情報/切れ目ない支援)
- ✓ “修学継続を支える”(修学計画の見直し/継続的な見守り/フィードバック)

## 学生相談室

- カウンセリング
- ✓ 学生が自分にとってよりよい選択ができるように支援 “あらためて選びなおす”
- ✓ 学生-関係者間の相互理解の促進
- 課内外の心理教育的支援
- 早期介入支援

## まとめ

- 学生支援の在りかたが変遷
- 中途退学に関連する学生支援が課題(大学経営, 社会的意義)
- とりわけ“不本意な退学”の予防が学生, 大学, 社会にとって重要
- 現代の青年期心性, 退学に関連した揺れる気持ちを理解した上で学生へ関わり, 全学的な取り組みを行っていくことが重要





5. その他 FD 委員会に対する要望等がありましたらご記入ください。
- ・有意義な研修会をありがとうございました。

## FD 研修会 「アクティブラーニングを体験する」

開催日時： 平成 30 年 9 月 6 日（木）13:00～16:00

開催場所： 第一薬科大学 新館 3 F 実務実習室

講師： 三木洋一郎 先生（九州大学大学基幹教育院・人文社会科学部門・医学教育学）

### 概 要

この研修会は 2 部構成で、第 1 部「アクティブラーニングとは」では、アクティブラーニングの考え方やいくつかの Tips をご紹介します。第 2 部「TBL を体験する」は、アクティブラーニングのひとつである TBL (Team-Based Learning) のイメージをつかんでいただくため、iRAT/tRAT/応用課題演習の体験ワークショップとなっています。TBL には様々なアクティブラーニングの手法が組み合わされており、その一部を授業に取り入れるだけでもアクティブラーニングを実現することができます。

### 目 標

この研修会の目標は、アクティブラーニングの考え方といくつかの Tips を理解することです。具体的な行動目標は以下の通りです：

- 1) アクティブラーニングのポイントを説明できる
- 2) アクティブラーニングの手法を説明できる
- 3) 「TBL の 3 つのフェーズ」を説明できる
- 4) TBL が他の教育手法とどのような点で異なるかを説明できる
- 5) TBL をはじめとするアクティブラーニングについて関心を持ち続ける

### 学習リソース

#### ●書籍

1. アクティブラーニング, (編) 中井俊樹, 玉川大学出版部, 2015.
2. アクティブラーニングの技法・授業デザイン, (編) 安永悟, 関田一彦, 水野正朗, 東信堂, 2016.
3. ディープ・アクティブラーニング, (編) 松下佳代, 勁草書房, 2015.
4. TBLー医療人を育てるチーム基盤型学習, (監修) 瀬尾宏美, ハイメディクスインターナショナル, 2009.  
(原書) Team-Based Learning for Health Professions Education: Larry K. Michaelsen, Dean X. Parmelee, Kathryn K. McMahon and Ruth E. Levine, Stylus, 2008.
5. TBL 実践ガイド, (訳) 五十嵐ゆかり, 飯田真理子, 新福洋子, 三木洋一郎, 瀬尾宏美, International Association of Medical Science Educators (IAMSE), 2016.  
(原書) How-To Guide for Team-Based Learning, Ruth Levine and Patricia Hudes, International Association of Medical Science Educators (IAMSE), 2014.

●文献 (TBL 関連)

1. 新しい医学教育技法 TBL\_JNMS7.pdf (日医大医学会誌 2011:7(1), pp.20-23)  
<http://www.nms.ac.jp/jmanms/pdf/007010020.pdf>
2. LeastToKnowTBL\_MichaelSweet2011.pdf  
<http://www.missouriwestern.edu/appliedlearning/documents/LeastToKnowTBLMichaelsen2011.pdf>
3. Parmelee DX and Michaelsen LK. Twelve tips for doing effective team-based learning (TBL). Med Teach 2010; 32: 118-122.
4. Parmelee DX, Michaelsen LK, Cook S and Hudes PD. Team-based learning: A practical guide: AMEE Guide No.65. Med Teach 2012; 34: e275-e287.
5. Cook S. Writing outstanding MCQs that match your objectives: Why keep assessing your student's performance a secret? SGH Proceedings 2008; 17(3): 154-159.

●Web サイト (TBL 関連)

1. Team Based Learning Collaborative (TBLC)  
<http://www.tbllcollaborative.org>
2. Wright State University, Boonshoft School of Medicine  
<https://medicine.wright.edu/medical-education/> (次の行に続く)  
[faculty-development/team-based-learning/introduction](https://medicine.wright.edu/medical-education/faculty-development/team-based-learning/introduction)
3. Duke-NUS Medical School, Centre of Regulatory Excellence (CoRE)  
<https://www.duke-nus.edu.sg/core/page/team-based-learning>

プログラム

時刻	時間	内容	備考
13:00	5	開会挨拶	戸田晶久教授
(第1部) セミナー「アクティブラーニングとは」			
13:05	80	アクティブラーニングの考え方	
(第2部) ワークショップ「TBLを体験する」			
13:50	40	アクティビティ1: 準備確認プロセス (RAP) を体験する <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ分け</li> <li>・iRAT と tRAT</li> <li>・質疑応答</li> </ul>	iRAT [6分] tRAT [12分] スクラッチカード使用
休憩 (10分間)			
14:40	40	アクティビティ2: 応用課題演習を体験する <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク</li> <li>・質疑応答</li> </ul>	提示カード使用
15:55	5	アンケート記入	

※時間は目安です

## 第一薬科大学FD研修会 「アクティブラーニングを体験する」

九州大学・基幹教育院  
三木洋一郎



### ●目標

#### 【GI0】

授業にアクティブラーニングの要素を取り入れて学生のモチベーションと学力を向上させるために、アクティブラーニングの考え方といくつかのTipsを理解する

#### 【SBOs】

1. アクティブラーニングのポイントを説明できる
2. アクティブラーニングの手法を説明できる
3. 「TBLの3つのフェーズ」を説明できる
4. TBLが他の教育手法とどのような点で異なるかを説明できる
5. TBLをはじめとするアクティブラーニングについて関心を持ち続ける

### ●研修会の進め方

#### 第1部 参加型セミナー

##### 解説

- アクティブラーニングの考え方
- TBLの基本的事項

#### 第2部 体験ワークショップ

Activity1 「準備確認プロセスを体験する」

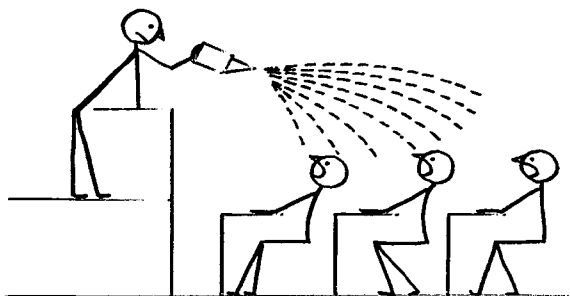
Activity2 「応用課題演習を体験する」

FD研修会「アクティブラーニングを体験する」

第1部 参加型セミナー「アクティブラーニングとは」

### 解説

- アクティブラーニングの考え方
- TBLの基本的事項



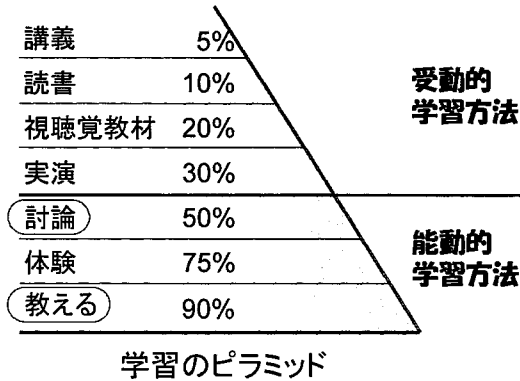
Didactic teaching



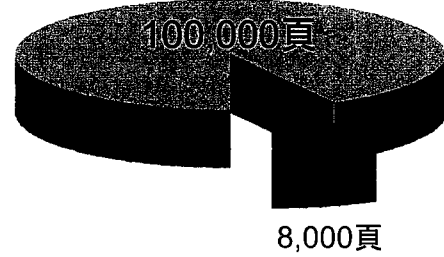
- ✓ 課題を発見する能力
- ✓ 自学自習の態度習慣
- ✓ 問題解決能力の習得
- ✓ 対人態度・集団行動能力

PBLチュートリアル@高知大医学部

## 学習方法と記憶に残る割合



学ぶべき  
本・参考書・専門書...



1時間で伝授できる専門知識(およそ2頁)  
×6年間の授業時間(4,000時間)

"Give a man a fish and  
you feed him for a day.  
Teach him how to fish and  
you feed him for a lifetime."

「いかに学ぶか」を学ぶことが大切

自己学習のスキル

➡ 自律した生涯学習者



TBL授業@高知大医学部看護学科

## 「アクティブ・ラーニング」とは？

新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて  
中央教育審議会答申 平成24年8月

生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換が必要である。すなわち個々の学生の認知的、倫理的、社会的能力を引き出し、それを鍛えるディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を中心とした授業への転換によって、学生の主体的な学修を促す質の高い学士課程教育を進めることが求められる。学生は主体的な学修の体験を重ねてこそ、生涯学び続ける力を修得できるのである。

### 成熟社会において求められる能力

- 「**学士力**」
- 答えのない問題に解を見出していくための批判的、合理的な思考力等の認知的能力
  - チームワークやリーダーシップを発揮して社会的責任を担う、倫理的、社会的能力
  - 総合的かつ持続的な学修経験に基づく創造力と構想力
  - 想定外の困難に際して的確な判断ができるための基盤となる教養、知識、経験

### 求められる学士課程教育の質的転換

- 「学士力」を育むには、**双方向の授業や主体的な学修**を促す学士課程教育の質的転換が必要
- 主体的な学修の体験を重ねてこそ、**生涯学び続け、主体的に考える力を修得**。  
⇒質を伴った学修時間が必要

中教審「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」(平成24年8月28日)

## 「アクティブ・ラーニング」(溝上による定義)

一方的な知識伝授型講義を聞くという(受動的)学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う。

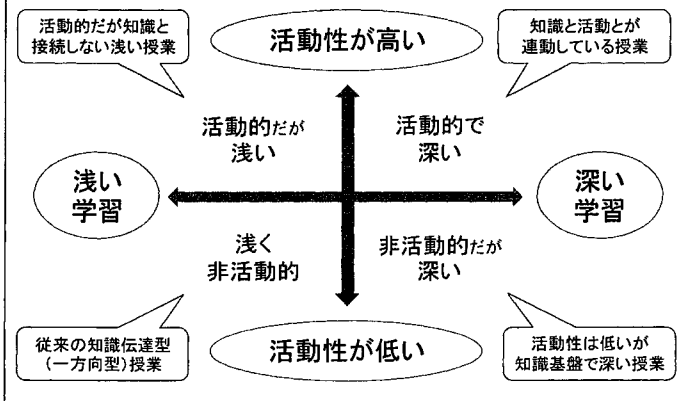
「ディープ・アクティブラーニング」、松下(編著)、勁草書房

## 協同学習の基本的な考え方

	競争中心の教育パラダイム	協同中心の教育パラダイム
知識観	教員が学生に伝える	知識は対話を通して創り上げる
学生観	知識を受け取る器	知識を構成する主体
授業目的	学生の分類・選別	学生の能力開発
人間関係	非人間的な関係	クラス全体の人間的な関係
学習環境	競争や個別を促す環境	協同を促す支持的環境
授業の前提	専門知識があれば教えられる	教えることは複雑で訓練が要る

安永悟・須藤文、LTD話し合い学習法、ナカニシヤ出版

## ディープ・アクティブ・ラーニングが大切



## アクティブラーニング型授業の様々な技法と戦略

タイプ	タイプ0	タイプ1	タイプ2	タイプ3
学習の形態	受動的	能動的	能動的	能動的
主導形態	教員主導	教員主導・講義中心型	教員主導・講義中心型	学生主導
アクティブ度		低	中～高	高
技法・戦略	話し方 板書の仕方 スライドの見せ方 実物やモデルによる提示	コメントシート ミニツツペーパー 小レポート 小テスト 宿題(含eラーニング) クリッカー 授業通信	ディスカッション プレゼンテーション 体験学習	協同学習(技法) 調べ学習 ディベート 話し合い学習 ピアインストラクション PBL TBL ケースメソッド その他

「アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換」、溝上、東信堂

## 協同学習の基本要素

### Johnson兄弟の定義

- 肯定的相互依存
- 促進的相互交流
- 2つの責任(アカウンタビリティ)(自己とグループ)
- 集団作業スキルの促進
- 活動のふりかえりと改善

### Keganの4要素

- 肯定的相互依存
- 個人の責任(アカウンタビリティ)(成果に貢献する)
- 参加の平等性(皆が同じ回数・時間話す)
- 活動の同時性

全ての要素が満たされる ➡ 協同学習  
1つでも欠けている ➡ グループ学習

## さまざまなアクティブ・ラーニング

- 大がかりなアクティブ・ラーニング
  - PBL(問題基盤型学習法)
  - TBL(チーム基盤型学習法)
  - シミュレーションやロールプレイ
- 明日からできるアクティブ・ラーニング
  - Think-Pair-Share(Think-Write-Pair-Share)
  - ラウンド・ロビン
  - バズ学習法

「アクティブラーニング」、中井(編)、玉川大学出版

## アクティブ・ラーニングの「コア」

- 雰囲気作り
- 発問で刺激する
- 話させる・書かせる
- 学生相互に学ばせる
- 経験や事例から学ばせる

「アクティブラーニング」、中井(編)、玉川大学出版

## 発問で刺激する —学生に考えさせる—

- 発問＝教員が学習者に対して教育的な意図をもって問う伝統的な教育技法
- 「問い」には力がある
- 問われると人は考える
- わかっている人がわかっていない人に問う

まずは「問いかけ」から！

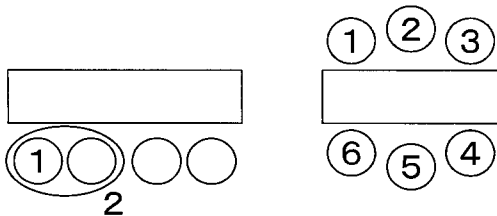
- ワークシートを活用
- 学生同士のミニ討論

中井、「アクティブ・ラーニング」、IDE、582巻、2016、他による

## 話させる・書かせる

### —知的プロセスの外化—

- 「話す」という外化  
Think-Pair-Share、ラウンド・ロビン、バズ学習



## 話させる・書かせる

### —知的プロセスの外化—

- 「話す」という外化  
Think-Pair-Share、ラウンド・ロビン、バズ学習
- 「書く」という外化  
Think-Write-Pair-Share、ミニッツ・ペーパー、当日レポート

その他に...

- レスポンス・アナライザ
- ピア・インストラクション (Mazur, 1997)
- TBL

## Think-Write-Pair-Shareを実践しましょう

### 問い:理想の教育とは何だろう

1. 近くの人とペアを作ってください
2. 各自、考えを書き止めます [2分]
3. 相手に伝えます ①→② [1分]
4. 相手に伝えます ②→① [1分]
5. 「相手の」意見を聞かせてもらいます



### 解説

- アクティブラーニングの考え方
- TBLの基本的事項

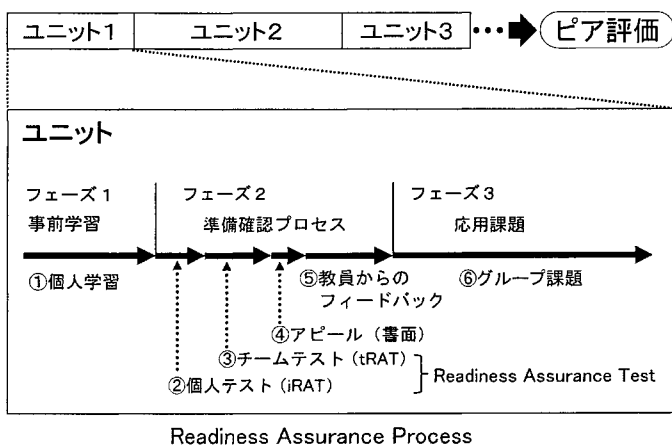


## チーム基盤型学習法



- Larry Michaelsen博士が開発した教育手法  
✓ 経営学や自然科学...約20年の実績
- 大規模なクラス(数十人~200人程度)を6人前後のグループに分ける
- グループが協調的に課題に取り組む  
⇒ 従来の講義よりも教育効果が高い
- そのための「しかけ」が組み込まれている

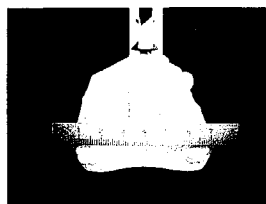
### TBL授業のフォーマット(流れ)



### 事前学習資料

#### 5. 歯列弓の計測

- (1) 歯列弓径 coronal arch length (Cr. A. L.)  
大坪式模型計測器を用い、左右第一大臼歯遠心接触点を結ぶ線から中切歯切縁までの距離を測定する。
- (2) 歯列弓幅径 coronal arch width (Cr. A. W.)  
ノギスを用い、第一小臼歯頰側咬頭頂間の距離を測定する。



歯列弓径の計測



(例)ユニット「永久歯列期の矯正治療」

### iRAT解答用紙 単一解答方式

解答欄  
※ 正解と思う選択肢を1つだけ選んでください。

	A	B	C	D
1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

### iRAT解答用紙 スプリット方式(“保険”方式)

解答欄

	A	B	C	D
1		3		2
2				5
3	1	1	2	1
4	1	4		

### 準備確認テスト

問1 模型計測法について正しい組み合わせはどれか。

- 歯冠近遠心幅径—切歯では切縁での幅径を計測
- 歯列弓幅径—左右第一大臼歯近心頰側咬頭頂間距離を計測
- 歯槽基底弓幅径—左右第二小臼歯の根尖部に相当する歯肉最深部の距離
- 歯槽基底弓長径—左右第一大臼歯遠心接触面から中切歯唇側歯肉最深部の距離

IMMEDIATE FEEDBACK ASSESSMENT TECHNIQUE (iRAT)

Name: 7 Test: 70

Subject: \_\_\_\_\_ Total: \_\_\_\_\_

SCRATCH OFF COVERING TO EXPOSE ANSWER

	A	B	C	D	Score
1.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	5
2.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2
3.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1
4.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	0
5.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2
6.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
7.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
8.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
9.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
10.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

チーム点

- 1回目=5点
- 2回目=2点
- 3回目=1点
- 4回目=0点

■ tRAT : スクラッチカードを使用

- ✓ 個々のグループにその場でフィードバック
- ✓ 正解に辿り着くまで考える → 知識の定着

## アピール

### TBLのポイント その1 即時・頻回なフィードバック

#### フィードバックを重視する理由

- その場で白黒つけることにより  
学習者が判断の正否を区別できるようにする
- 学習と記憶に不可欠
- チームの成長に大きな影響を与える

#### 他の教育法では・・・

- 講義： 一方向的な知識の伝授になりがち
- PBL： 直接的なフィードバックはせず、学生に任せる

#### アピール用紙

準備確認テスト (IRAT/GRAT) について反論したいことをチームで提出することができます。  
簡潔な文章かつ読みやすい字でお願いします。

#### ルール

- 以下の基準のどちらか、あるいは両方を満たす場合に限り反論することができます：
  - (1) 教科書等に照らして設問が事実として正しくない
  - (2) 設問の文言が紛らわしい
- 予習資料のほか、何を参照してかまいません。ただし、他のチームと相談することは認めません。
- アピール作成時間は、所定の GRAT 終了時刻、あるいは全チームが GRAT を提出した時点から 15 分後までです。チームで話し合ってから作成し、出来上がったら担当教員に提出してください。
- チームの主張（反論）を支持する出典（教科書など）を引用するか、“紛らわしい”箇所を含む設問全体を正しく書き直してください。
- 主張が正しいと認めた場合は、アピールを提出したチームだけに点数を加算します。
- 複数の設問に対してアピールがある場合は、別々のアピール用紙に記載してください。

チーム番号	設問番号	正しいと思う選択肢

(アピールの内容)

### 応用課題 (例) ユニット「永久歯列期の矯正治療」

課題1の症例。治療前検査の結果、抜歯を伴うマルチブラケット装置を用いた治療を行うこととした。最も適切な抜歯部位はどれか。根拠に基づいて決定しなさい。

- A.  $\frac{41}{2}$  B.  $\frac{31}{2}$  C.  $\frac{31}{4}$  D.  $\frac{41}{4}$

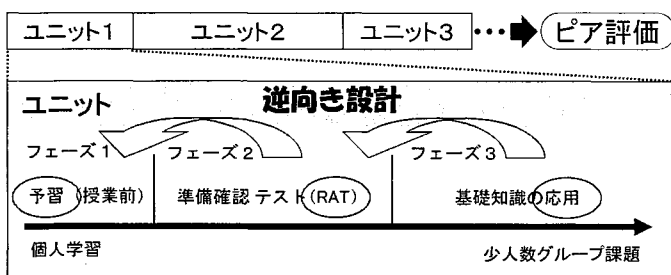


2012/1/20 スポーツ科学講義@高知大

チーム内で討議

▶ 提示カードで一斉に回答 ▶ チーム間で討議

### TBL 流の授業デザイン



到達目標

1. 学生は何ができるようになるべきか
2. それをどう測定するか .....▶ 応用課題
3. そのためには、何を知るべきか .....▶ 事前学習

### TBLのポイント その2 逆向き設計

まず「何ができるようになってほしいか」を決める

- 「誰に」、「どんな状況」で、「何に対して」、
- 「どんな決断を下せるようになってほしいか
- できるかどうかを、どう確かめるか ⇒ 応用課題

そのために

- 学生は何を知る必要があるか ⇒ 事前学習・RAT
- 決断を下す演習の場をどう与えるか
- よい判断と悪い判断の基準は何か

## 優れた課題の要因: 4つのS

- Significant  
学生にとって重要な課題であること

どんな場面で? どう使う??

➡ 不活性な知識

この知識を こんな場面で! こう使う!!

➡ 使える知識 !!!

### Same Problem

「同一課題」の原理

- ✓ 同一の課題について十分な吟味(チーム内)  
→ チーム間の議論が可能

Q: 次の考え方は正しいか否か?

グループごとに、テーマは共通だが異なる課題を与えて作業をさせた後、順に発表させれば、広い領域の知識を共有できる

問題点:

他の課題について十分な吟味をしていない

### Simultaneous Reporting

「一斉発表」の原理

- ✓ 自分たちの結論は変えられない
- ✓ 比較すべきポイントが明確になる

Q: 次の考え方は正しいか否か?

全グループに同一課題を与えて作業をさせ、順に発表させれば、さまざまな考え方に触れることができる

問題点:

- 発表者が、それ以前の発表に影響を受ける
- 時間がかかるため、集中できない
- プロダクト間の比較が難しい

### Specific Choice

「根拠に基づく選択」の原理

- ✓ 問題解決レベル
- ✓ 複数の可能な選択肢から1つを選ばせる  
= “なぜ”(選択の理由づけ)に重きをおく

#### 課題の難易度

- |             |                        |      |  |
|-------------|------------------------|------|--|
| 1) 列挙       | make a list            | 想起   |  |
| 2) 選択       | make a choice          | 解釈   |  |
| 3) 根拠に基づく選択 | make a specific choice | 問題解決 |  |

## TBL まとめ(1)

原則:

- 自律的なチームが現実世界の問題に取り組む
- 教員が必要な知識を特定する
- 知識の応用に力点を置く
- 学習者がフィードバックを受けることが大切

学習方法:

- 学習者は、事前学習して授業に臨む
- 基礎知識が身についていることを示すために「準備確認テスト」を受ける
- グループ内およびグループ間の討論を通じて、知識を応用課題に適用する

## TBL まとめ(2)

教員の役割:

- 知識の応用を目的とする学習目標を設定する
- 有意義な討論を生む応用課題演習を作成する
- 応用課題に取り組むのに必要なレディネスを確認する  
RATを作成する
- 基礎知識の獲得に必要な教材を準備する
- チーム内およびチーム間討論をファシリテートし、適切なフィードバックを与える

◎ 『教員主導』である



## FD 研修会参加報告

企画：2018 年度（第 5 回）基幹教育シンポジウム(九州大学基幹教育院主催)

日時：平成 30 年 8 月 21 日（火）13:00～16:30

会場：西新プラザ 大会議室（〒814-0002 福岡県福岡市早良区西新 2 丁目 16-23）

参加者：小川和加野(報告者)

### <プログラム>

#### 第 1 部 先進的な取り組み事例

特別講演 1（卒業研究の事例）大阪大学大学院理学研究科 教授 川畑貴裕

「学術研究を目指す卒業研究 -ビッグバン元素合成の謎に挑んだ大学生-」

特別講演 2（高校の事例）福岡県立戸畑高校 教諭 井上哲秀

「高校における課題研究の取り組み」

#### 第 2 部 九州大学の取り組み事例

講演 1（高大連携の事例）九州大学副理事・基幹教育院 教授 副島雄児

「FC-SP の取り組みと科学研究活動」

講演 2（大学初年次の事例）九州大学基幹教育院 教授 小早川義尚

「自然科学総合実験への統合とその改革」

講演 3（専攻教育の事例）九州大学大学院理学研究院 准教授 伊藤芳雄

「専門教育としての実験科目-理学部化学科（3 年）における有機化学実験-」

総合討論（質疑応答を含む）

### <報告>

第 5 回 基幹教育シンポジウムに参加した。今回のテーマである「高校・大学教育における科学実験の意義と課題 -実験による学びとアクティブラーナーの育成-」に基づき、京都大学における川畑貴裕先生（現職 大阪大学大学院理学研究科 教授）の取り組みとその成果、及び高校での事例として小倉高校における井上哲秀先生の取り組みとその成果が特別講演として発表された。休憩を挟み、九州大学での取り組みが発表された。

九州大学の FC-SP の取り組みは非常に興味深く、先進的な取り組み例として勉強になった。一方で、同じ九州大学 小早川先生の話では、教養の実習科目を統合したことに関連し発生したメリットとデメリット、さ

らには学部カリキュラムと初年時教育との時期的不整合の問題などが提示された。九州大学としてもまだ模索の最中であるとのことである。

また、高校の課題研究として、地域の問題や地域の企業についてネットベースではなく、実地調査で行っているとのことだった。このような実施方法は本学における卒業論文研究の実施の参考にもなると思われた。

編集委員

第一薬科大学 FD委員会

委員長 戸田 晶久

委員	村山 恵子	有竹 浩介	門口 泰也
	安川 圭司	岡崎 裕之	松延 千春
	藤井 由希子	濱村 賢吾	佐藤 文章
	豊原 敬三	宮本 明憲	

発行人

福岡市南区玉川町22-1 第一薬科大学内 戸田 晶久

印刷所

福岡市南区清水3-20-10 ㈱甘棠社

(非売品)

令和元年5月1日印刷

令和元年5月1日発行

発行所 福岡市南区玉川町22-1 第一薬科大学